

# キャリア教育 サポートガイド

北海道発信!



# 北海道発信！キャリア教育サポートガイド

## 目次

はじめに .....	2
<b>第一部 キャリア教育概論</b> .....	3
1. キャリア教育とは何か? .....	5
2. キャリア教育をめぐる動き .....	5
3. キャリア教育の現状と課題 .....	7
4. キャリア教育コーディネーターはなぜ必要か? .....	8
5. キャリア教育サポートガイド作成のねらい .....	9
<b>第二部 汎用化プログラム</b> .....	11
1. 汎用化プログラムの使い方 .....	13
2. 汎用化プログラム組み立てパターン例 .....	17
1) 「35時間」の長期プログラム .....	18
2) 講義と職場体験を中心とした授業 .....	20
3) 講演を中心とした授業 .....	22
4) 職場体験を中心とした授業 .....	24
5) 講話を中心とした授業 .....	26
6) 討論会を中心とした授業 .....	27
7) ワークを中心とした授業 .....	28
8) 企業・学校見学を中心とした授業 .....	29
9) 製作体験と見学を中心とした授業 .....	30
10) 企業見学を中心とした授業 .....	32
<b>第三部 各産業別事例紹介</b> .....	35
1) 食品加工 .....	37
2) 漁業 .....	43
3) 観光 .....	45
4) サービス .....	51
5) IT .....	55
6) 介護福祉 .....	63
7) 農業 .....	67
8) 自動車 .....	72
9) 流通 .....	76
あしがき .....	79

## はじめに

当NPOは、平成21年度に北海道経済部よりキャリア教育ビジネスモデル構築事業を受託し、北海道内各地でご協力いただいた多くの企業、事業所、個人の皆さまと、キャリア教育に熱心な教育関係者も得ながら、私たちコーディネーターが地域と学校をつないで、大きな成果を上げながら事業推進してまいりました。

同時に北海道キャリア教育推進協議会では定期的に、北海道経済部労働局雇用労政課、北海道経済産業局地域経済部産業人材政策課、北海道教育庁学校教育局高校教育課、北海道労働局職業安定部職業安定課、北海道商工会議所連合会、北海道PTA連合会の皆さまとともに、御意見をいただきながら事業の改善を、一步一步進めています。

世の中がめまぐるしく変わっていく中、地域とともに、「仕事」「職業」「大人の生きざま」などをテーマとしたキャリア教育授業のコーディネート事例を本誌にまとめました。

今後も、「生きる」すべをあらゆる方向性から地域とともに、心に響く授業のコーディネートをやってまいります。

道内各地でキャリア教育の授業に携わっていただいた多くの企業、事業所、個人の皆さま、ご協力ありがとうございました。



平成23年3月

NPO法人 教育プラットフォーム北海道

キャリア教育コーディネーター 渡部 沙織

植木 しづ子



# **第一部 キャリア教育概論**

# キャリア教育概論

## 1. キャリア教育とは何か？

キャリア教育を推進するためには、キャリア教育の定義を明確にしなければなりません。

「キャリア教育」の定義については様々な議論がありますが、平成11年12月、文部科学省の中央教育審議会ではキャリア教育を「**望ましい職業感・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育**」と定義しました。

この流れを受けて、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」では以下の定義にまとめました。

### キャリア教育とは

キャリア概念に基づいて、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」

(文部科学省・キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書、2004年1月)

### ①キャリア概念（キャリアとは何か）

「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」

(小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き、2006年11月)

### ②キャリア発達とは？

「発達とは生涯にわたる変化の過程であり、人が環境に適応する能力を獲得していく過程である。」  
その中で、キャリア発達とは、自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。」

(小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き、2006年11月)

## 2. キャリア教育をめぐる動き

平成11年度に中央教育審議会においてキャリア教育が提起されてから10年あまりを経て、キャリア教育を教育内容に正式に位置づける制度改正が進められてきました。

### ①4府省合同「若者自立・挑戦プラン」(平成15年)

「高い失業率、増加する無業者、フリーターなど、若者を取り巻く雇用情勢は極めて厳しい状況にあり、このような状況が続けば若者の職業能力の蓄積がなされず、中長期的な競争力・生産性の低下と言った経済基盤の崩壊や、社会不安の増大、深刻な社会問題を惹起しかねない。」という危機感から平成15年6月10日、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、経済財政政策担当大臣が「若者自立、挑戦戦略会議」において、『若者自立・挑戦プラン』がとりまとめられました。

### ②教育基本法の改正（平成18年12月）

平成18年12月に教育基本法が約60年ぶりに改正されました。 キャリア教育に関連した内容として、教育基本法第2条（教育の目標）に「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い自主及び自律の精神を養うとともに、職業・生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」「主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」が定められ、キャリア教育を充実する方向性が明記されました。

### ③学校教育法の一部改正

平成19年6月に改正され、キャリア教育に関する内容としては、第21条の義務教育の目標として、「**学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。**」(第21条1項)と社会的活動の促進を重視することとされています。

また、「**職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。**」(第21条10項)とされ、学校教育においてキャリア教育に取り組むことが組み入れられました。

### ④学習指導要綱の改訂(小中学校 平成20年、高校 平成21年)

平成20年の小中学校の改訂では、道徳性を育成する体験活動として職場体験が具体的に例示されました。また総合的な学習の時間の中に、職業や自己の将来に関する学習活動が入りました。さらに各教科の指導内容にも、社会の中でその知識がどのように役立っているか、職業との関連性についても結びつけて指導することが盛り込まれています。

平成21年の高校の学習指導要綱には、「教育課程の編成」において「**生徒が自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること**」と明確に「キャリア教育」という文言が盛り込まれています。

### ⑤中央教育審議会の動き

平成20年1月の中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」では産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化等、急速な社会変化に柔軟に対応し、社会人、職業人として自立していくためには発達段階に応じて、学校の教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の体系的な指導の推進を図ることを求めています。

文部科学省は、「キャリア教育・職業教育特別部会」を平成20年に設置し、社会・職業への円滑な移行のために児童生徒等に求められる基礎的・汎用的な能力について明らかにして、各発達段階に応じて確実な育成を図り、体系的なキャリア教育の充実に関する審議をしています。

平成22年5月に出された第二次審議経過報告では、社会的・職業的自立に必要な能力や、育成するための体系的な取り組みの構築の必要性などがとりまとめられました。

(以上 経済産業省 キャリア教育コーディネーター養成講座公式テキストより抜粋)

### 3. キャリア教育の現状と課題

前項にあげた各省庁の動きを受けて、キャリア教育に関わる取り組みとしては文部科学省が平成18年より21年まで行った、中学校における週5日間以上の職場体験を推進する「キャリアスタートウィーク」や平成21年度より行われている、学校と地域の連携を深めて、様々な教育活動を進める「学校地域支援本部」、経済産業省では平成17年から19年まで、民間コーディネーターを活用したキャリア教育を実施する「地域自律民間活用型キャリア教育プロジェクト」、厚生労働省でもハローワークの窓口を通じた支援が実施されてきました。現在では各学校において広くキャリア教育が行われるに至っています。しかし、その一方で平成23年1月に中央教育審議会から「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が答申され、第一章にあるキャリア教育・職業教育の内容と課題の中では「キャリア教育の必要性や意義の理解は、学校教育の中で高まってきており、実践成果も上がっている。」としながらも

- 「新しい教育活動を指すものではない」としてきたことにより、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり「体験活動が重要」という側面のみをとらえて、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘されるなど、一人一人の教員の受け止め方や実践の内容・水準にばらつきがある。

また、答申の第六章には

- 子どもに仕事や職業を認識させるためには、社会や仕事・職業について理解させる必要があるが、教員が多くの仕事について実感をもって指導することは困難
- 産業界との連携については、職場体験学習と就業体験活動に関し、学校は「受け入れ先の確保が困難」、企業は「学校側から支援要望がない」と多く回答した調査がある

などの課題も指摘されています。

(※以上、中央教育審議会 平成23年1月31日

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」より抜粋)

こうした課題のほか、キャリア教育の実施に当たっては多くの人材や企業等との調整が必要となり、これが多忙を極める教員や学校側の負担となっている現状もあり、学校と地域社会を繋ぐ外部人材の必要性が叫ばれるようになりました。平成19年5月にキャリア教育等推進会議から出された「キャリア教育等推進プラン」の中では『各学校のニーズに応じて地域の様々な資源の活用促進や、その発掘・協力取り付け等を含めたコーディネートを行う学校外の企業やNPO等の民間主体の組織・人材の育成、活用を図る。』（平成19年 キャリア教育等推進会議キャリア教育等推進プラン）、また文部科学省は中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会の中間報告で、キャリア教育コーディネーターの重要性を以下のように打ち出しました。

- 学校外には、企業等や地域社会と調整を行う準備役を確保することが適当である。今後、配置の在り方や職務内容について、更に検討が必要である。
- 都道府県の教育センターや教育事務所単位等に、学校と外部との連携や校内の体制整備等について指導や助言を行うものを置き、高等学校におけるキャリア教育を総合的に支援していくことが必要である。

(平成21年7月 中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会)

## 4. キャリア教育コーディネーターはなぜ必要か？

キャリア教育に関わる外部人材の必要性から経済産業省では平成17年より産業界にとっては企業の持っている教育コンテンツと授業内容や子どもの理解度合いとの調和を図るコンサルタントとして、また教育界にとっては教育に協力してくれる人材や企業との調整、キャリア教育プログラムの作成の支援者として、産業界・教育界の双方の事業に通じた教育支援の専門家を「キャリア教育コーディネーター」として定義し、活動内容の質の向上やコーディネーター育成手法を確立させてきました。

経済産業省はキャリア教育コーディネーターを以下のように定義しています。

キャリア教育コーディネーターとは、児童・生徒等の能力を活用する「場」を提供することで、社会的自立に向けたちからのはぐくみを支援し、学校の学びの中で地域一体となったキャリア教育の実現を促す教育支援人材である。

具体的にはキャリア教育コーディネーターは以下のような役割を担います。

- 1) キャリア教育に必要な地域資源の発掘とネットワークの構築・維持
- 2) 学校や地域・企業等のニーズを踏まえたキャリア教育に関するプログラム
- 3) プロジェクトの運営管理・連絡・調整

上記の役割を全うするためには、様々な知識と経験が必要となります。経済産業省ではキャリア教育コーディネーターが身につけるべき知識と技能として以下を挙げています。

- 1) キャリア教育についての基本的知識
- 2) キャリア教育コーディネーターの業務と在り方
- 3) 学校と地域・企業等のネットワーク構築方法
- 4) 産業・地域の現状
- 5) 学校の現状と課題
- 6) キャリア教育に関するプログラムの開発方法
- 7) プロジェクトの運営管理に必要な知識・手法

こうした知識と経験を持ったキャリア教育コーディネーターが授業をコーディネートし、学校と地域・企業をつないでいくことで、より以下に挙げる効果的なキャリア教育を実施することが出来ます。

- 多くの人材や企業、場との調整が可能となる
- コーディネーターが持つ、ノウハウを活用することで効果的なキャリア教育プログラムは企画実施できる。
- キャリア教育の効果を高めるための年間を通じた体系的なプログラムが実施可能
- 効果的なキャリア教育を毎年持続的に実施するための地域の支援体制の構築ができる

(以上 経済産業省 キャリア教育コーディネーター養成講座公式テキストより抜粋)



地域に専門的な知識を持った相談できるコーディネーターが存在しないことが殆どであることから、経済産業省では平成20年からキャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム構築事業の中で、キャリア教育コーディネーター育成講座を実施し、平成23年3月にはキャリア教育コーディネーターの資格認定を行うキャリア教育コーディネーターネットワーク協議会が設立され、今後、継続的にキャリア教育コーディネーター育成講座と認定試験（平成23年6月実施予定）が実施される予定です。

## 5. キャリア教育サポートガイド作成のねらい

前項にあげたキャリア教育コーディネーター育成の動きはまだ始まったばかりで、全国的にも人数が不足している上に、北海道内ではコーディネーターが都市部に偏在しているのが現状です。

このキャリア教育サポートガイドは広大な北海道内で効果的なキャリア教育を推進するために、北海道経済部よりキャリア教育受託ビジネスモデル構築事業を受託した、NPO法人教育プラットフォーム北海道が北海道内でコーディネートした中学校・高等学校のキャリア教育プログラムの実施事例をプログラム別・産業別に分類したものです。これまでもキャリア教育に関する全国的な実施事例は各省庁から発表されていますが、地域ごとに多様な産業特性を持つ北海道内で行われたキャリア教育のコーディネート事例や、それをプログラムや産業別で分類された実施事例集がありませんでした。

本書の特徴として

- 1) 北海道各地域の産業にマッチしたキャリア教育プログラムが実施できる
- 2) 学校の事情（時間数・生徒数等）にマッチしたキャリア教育プログラムが実施できる
- 3) 北海道各地における協力人材・企業が具体的に記載しており、他地域でキャリア教育を実施する場合に支援体制づくりに役立つ
- 4) 多様な産業の事例を網羅しており、実施事例が協力企業側の参考になる

このサポートガイドが、全道の各学校や地域の外部人材の方々にとって、キャリア教育プログラムの実施にあたり役立つものと期待しています。



## **第二部 汎用化プログラム**



## 汎用化プログラムの使い方

この汎用化プログラムは、事前学習・本時・事後学習それぞれのプログラムに組み込めることが可能なコンテンツです。授業の時数や場所、外部講師の活用などその時々ニーズに合わせて自由に組み合わせることができます。ただし、コンテンツはあくまでも例にすぎないので必ずしもこの中から選択してプログラムを作らなければいけないということではありません。これらを参考に、新しいコンテンツをプログラムに組み込むことが可能です。

また、汎用化プログラム起用の際「外部講師は誰を呼んだらいいんだろう」「職場体験先の企業がなかなか見つからない」「もっと違うプログラムを考えられないかな」など学校の先生だけでは対応仕切れないこともあるかと思います。そのような時はぜひ「キャリア教育コーディネーター」をご活用下さい。

『キャリア教育コーディネーターとは、地域社会が持つ教育資源と学校を結びつけ、児童・生徒等の多様な能力を活用する「場」<sup>(\*)</sup>を提供することを通じ、キャリア教育を行うプロフェッショナルである』

(※「場」とはものづくりや職場での体験活動などの場所という狭義の意味だけではなく、地域社会がもつ教育資源を活用した学びの機会という意味を含む。)

「キャリア教育コーディネーター育成ガイドライン」より抜粋

## キャリア教育プログラムの基本的な流れ

### 事前学習

体験のために必要な知識や技術を身に付けることが重要。  
事前学習を通して、キャリア教育の目的を子どもたちと共有しておくことで子どもたちの自発的な学びも期待できる。

### 本時

働く大人や職場との関わりの中から「働くこと」や「仕事」の意義を学ぶ。

### 事後学習

単なる振り返りで終わらせない振り返り。  
「楽しかった」「驚いた」と感じただけでも意味はあるが、「この体験から何を学んだのか」と体験学習を振り返らせる事後学習は大変有意義なものになる。

# キャリア教育の方向性

## 「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」へ

キャリア発達にかかわる諸能力を従来は「4領域8能力」で示していましたが、現在は「基礎的・汎用的能力」へ再構成されました。これらの視点をもとにプログラムを作成します。

### ●人間関係形成・社会的能力

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他社の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

### ●自己理解・自己管理能力

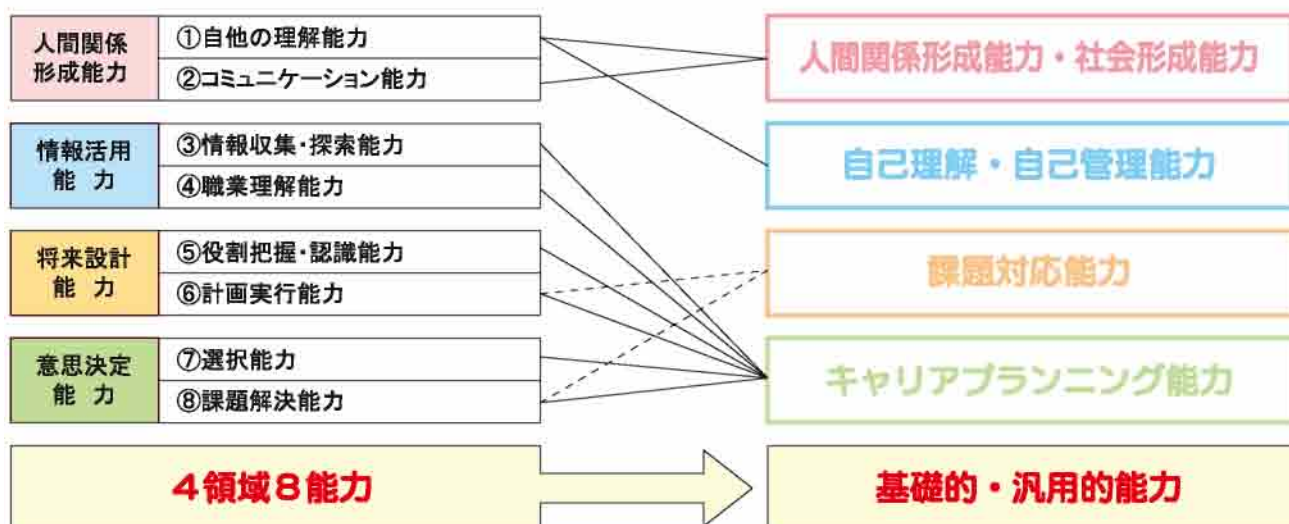
「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

### ●課題対応能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

### ●キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形勢していく力である。



※図中の破線は両者の関係性が相対的に見て弱いことを示している。

※資料提供：中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」から抜粋

## カリキュラムを構成するプログラムの例

※①～⑧はそれぞれのコンテンツが「4能力8領域」の中のどの力をつけることができるのかを示しています。「基礎的・汎用的能力」より細分化されているのであえてこちらを使用しています。

### 事前学習プログラム例

#### 調べ学習

③

体験学習に必要な基礎知識を知るとともに興味関心を深める。

#### 事前訪問

②③④⑤

事前に職場体験先を訪問することで、意識を高める。

#### マナー講座

②④

職場体験などで社会の実情にあったマナーを学ぶ。

#### お金の学習

③⑤

お金の意味や経済・社会の仕組みについて学ぶ。

#### 講話

③④⑤

職業人である大人に学校へ来てもらい話をしてもらう。

#### インタビュー学習

②③④⑤

体験に必要な知識や情報、あるいは動機付けとなる話を聞く。

#### 自己理解

①②⑤

進路選択ややりたい職業を考える前に、まず自分自身を知る。

#### メンタルトレーニング

①②

社会に出てから自立するための基礎的な心構えを学ぶ。

### 体験学習プログラム例

#### 職場体験

①～⑧全て

実際の職場に出かけ職業体験をする。

#### 職場見学

③④⑤

実際の職場に出かけ説明を受けながら見学をする。

#### 講演

③④⑤

職業人である大人に学校へ来てもらい話をしてもらう。(講話より規模が大きめ)

#### 製作体験

②④⑤

何かのテーマにあったものづくりをさせる。

#### 雑誌・新聞作り

②③④⑤

目的をもって人の話を聞いて書く、読み手のために本を作る。

#### 討論会

①②⑤⑧

テーマに対する自分の考えを持ち、意見を言い合う。

#### 学校見学

③⑥⑦⑧

進学先を決めるためにも入試前に上級学校を見学する。

#### 調査研究

③⑦

テーマに沿ったものを調査する。

#### インターンシップ

①～⑧全て

実際に職場に行って数日間、職業体験をする。

#### 企画立案

①②③⑧

与えられたミッションに対して考えさせプレゼンテーションさせる。

#### 広報宣伝活動

①②③⑤⑥⑧

お客さんを呼ぶために広告や宣伝活動を行う。

#### インタビュー学習

②③④⑤

目的をもって働く人の話を聞き、まとめる。

## 事後学習プログラム例

### 礼状書き

③⑤

礼状の基本的な書き方を学び、職場体験でお世話になった方へ礼状を書く。

### 発表会

①②⑤⑥

体験学習で経験したこと、学んだことをまとめ皆の前で発表する。

### プレゼン講習

③⑤

発表を通じて、人に伝える技術や声の出し方などを学習する。

### IT学習

③⑤

発表用の資料づくりにIT学習を絡める。

### レポート作成

①⑤

体験学習を振り返りレポートを書く。

### 作文

①⑤

体験学習を振り返り作文を書く。

### 新聞作り

①⑤⑥

新聞のレイアウトなどを考え、体験学習で経験したことをまとめる。





## 汎用化プログラム組み立てパターン例

1. 35時間の長期プログラム
2. 講義と職場体験を中心とした授業
3. 講演を中心とした授業
4. 職場体験を中心とした授業
5. 講話を中心とした授業
6. 討論会を中心とした授業
7. ワークを中心とした授業
8. 企業・学校見学を中心とした授業
9. 製作体験と見学を中心とした授業
10. 企業見学を中心とした授業

キャリア教育プログラムの流れ（事前学習⇒本時⇒事後学習）を基本に、コンテンツを組み合わせたプログラムのモデル事例をご紹介します。

プログラムは、学習のねらいや生徒の実情、授業時間数などに合わせて自由な組み合わせが可能です。

## モデル事例1 35時間の長期プログラム（中学校）

◆学校名	室蘭市立向陽中学校
◆対象学年・人数	第2学年 136名
◆授業時数	事前13+本時7+事後15

### 事前学習 (使用時数)

ガイダンス

(2 h)

経済の話

(1 h)

環境の話

(1 h)

地域産業調べ

(2 h)

講話

(2 h)

発表

(1 h)

体験ガイダンス

(2 h)

マナー研修

(2 h)

### 本時 (使用時数)

職場体験

(4 h)

職場見学

(3 h)

### 事後学習 (使用時数)

お礼状作成

(2 h)

講演

(2 h)

パワーポイント  
研修

(2 h)

まとめ

(6 h)

発表

(2 h)

ふりかえり

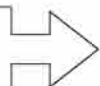
(1 h)



内容	時数	項目	学習内容
1	2	ガイダンス	1年間の学びを意識付けする ねらいの共有 課題設定 テーマ別グループ分け
2	1	経済の話	ニート・フリーターの現実や税金、社会保険、年金などのしくみを学ぶ（講話、ゲーム形式） 【講師】ファイナンシャルプランナー 横井様
3	1	環境の話	自分が住む地域、地球環境について正しい知識を身に付ける 【講師】室蘭工業大学 清水准教授
4	2	地域産業調べ	職場体験グループ分け 地域産業の特徴 地域の特徴の調査 グループ活動
5	2	職業人講話	地域理解を深めるための地元有識者による講話 クラス単位で4テーマの話聞く（講師4名）
6	1	事前学習まとめ・発表	地域産業調べまでの事前学習をふりかえりまとめを行う ⇒新聞を書いてまとめ
7	2	体験ガイダンス	調査研究に向け計画を立てる 校外活動のため、移動計画は綿密に！
8	2	マナー研修	宿泊研修時、職場体験直前に実施 （職場体験を中心にした社会での一般マナー）
9	4	調査研究と職場体験1 （宿泊研修1日目）	職場体験 ねらい：地元産業のその後を札幌で体験し職業のつながりを理解させ職業観を育成する （4業種：漁業、食品加工、流通、観光）
10	3	調査研究と職場体験2 （宿泊研修2日目）	職場見学 三井アウトレットパーク（全員）＋4コースに分かれて見学 （カルビー、キリンビール、岩塚製菓、コカコーラ）
11	2	お礼状作成	文例考案 下書き 清書 【講師】国語専門塾みがく 坂本様
12	2	講演	まとめを行う前に体験先企業の方からふりかえり、講評、今後に向けてお話し頂く
13	2	パワーポイント研修	パワーポイントを用いたプレゼンの仕方を学ぶ
14	6	まとめ	パワーポイントを用いたまとめ
15	2	発表	2年生全体の発表会 （校長先生、教頭先生が講評）
16	1	ふりかえり	全体を通してのふりかえりを行う

### このプログラムで育まれる能力

**4領域8能力全て**



人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力  
課題対応能力、キャリアプランニング能力(基礎的・汎用的能力全て)

## モデル事例2 講義と職場体験を中心とした授業（中学校）

◆学校名	札幌私立青葉中学校
◆対象学年・人数	第2学年 86名
◆授業時数	事前6＋本時1日＋事後4

事前学習  
(使用時数)

講 話

(3 h)

調べ学習

(1 h)

事前計画

(1 h)

マナー研修

(1 h)

本時  
(使用時数)

職場体験

(6 h)

事後学習  
(使用時数)

お礼状作成

(1 h)

パワーポイント  
研 修

(1 h)

発表準備

(1 h)

発 表

(1 h)

内容	時数	項目	視点	学習内容
1	3	職業人講話	一連の学習の動機付け 自己の将来や働くことへの関心高めさせる	IT業界で働くことや職業について考える 【講師】 電子開発学園 安倍様
2	1	調べ学習	充実した体験学習になるよう調べ学習を通して意欲を高める	職場体験先のグループ分け 職場体験先についてインターネット等で調べる
3	1	実施事前計画書	事前計画を立てることで自らの行動に責任を持たせ、体験学習への意欲を高めさせる	職場体験を安全にスムーズに行うために移動計画を立て、当日の持ち物や集合時間の確認等を自ら行う
4	1	マナー講習	職場体験に向けて、社会で必要なルールやマナー、社会で求められる力について理解させる	外部講師を招いてロールプレイなどを行う 【講師】 パートナーズ研究所 土倉様 職場体験当日の朝に行い、その後各グループ職場体験へ
5	6	職場体験	体験活動を通して働くことの意義や職業の役割についての理解を深めさせる	【体験先】 札幌市内の20～30の企業・事業所
6	1	お礼状作成	ルールやマナーの意義を理解させ、適切な言葉遣いや言動をとる態度を育てる	文例考案、下書き、清書をしてお礼状を作成する (クラス担任指導)
7	1	まとめ	これまでの体験や知識を総動員して、発表できる形にまとめさせる	体験ごとグループになり、模造紙やパワーポイントを用いた発表会に向けてまとめていく
8	1	発表準備	段取りや準備の大切さを理解させる	発表会のリハーサル
9	1	発表会・講評	プレゼンテーション力をつけさせる、各自の体験をクラスや学年で共有する	保護者や体験先企業を招いての発表会、発表に対して外部講師から講評 これまでの一連の学習をふりかえる

### このプログラムで育まれる能力

4領域8能力全て

人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力  
課題対応能力、キャリアプランニング能力(基礎的・汎用的能力全て)

## モデル事例3 講演を中心とした授業（中学校）

◆学校名	北広島市立大曲中学校
◆対象学年・人数	第3学年 200名
◆授業時数	事前5+本時1日+事後2

事前学習  
(使用時数)

準備学習

(1 h)

講演

(4 h)

本時  
(使用時数)

職場体験

(6 h)

事後学習  
(使用時数)

お礼状作成

(1 h)

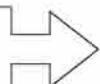
ふりかえり

(1 h)

内容	時数	項目	視点	学習内容
1	1	準備学習	講演前の動機付け	名刺の働き、機能について考える 自分の名刺を作成する
2	2	講演会	商品やサービスに込められた 思いを理解する 自らの価値観を見つめ直し、 充実した生き方を追及する意 欲を高める (産業：サービス)	【講演聴講】 名刺に込められた思いを知る 講師の仕事に対する思いや取り組み 方を知る 【トークセッション】 阿部社長×生徒代表5名×先生 【講師】 日新堂印刷株式会社 阿部社長
3	2	講演会	社会で生きる大人から直接話 を聞くことで、企業の理念や 働く人々の想い、生き方の多 様性を知る (産業：サービス)	【講演聴講】 会社、企業が求める人材、講師自身 について知る 【講師】 株式会社きのとや 佐藤様 西山製麺株式会社 西山様 株式会社カナリヤ 森吉様
4	6	職場体験	体験活動を通して働くことの 意義や職業の役割についての 理解を深めさせる	【体験先】 北広島市内、札幌市内

### このプログラムで育まれる能力

4領域8能力全て



人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力  
課題対応能力、キャリアプランニング能力(基礎的・汎用的能力全て)

## モデル事例4 職業体験を中心とした授業（中学校）

◆学校名	札幌市立南が丘中学校
◆対象学年・人数	第2学年 117名
◆授業時数	事前7+本時1日+事後3

事前学習  
(使用時数)

準備学習

(5 h)

講話

(1 h)

マナー講習

(1 h)

本時  
(使用時数)

職場体験

(5 h)

事後学習  
(使用時数)

レポート作成

(1 h)

お礼状作成

(1 h)

報告会

(1 h)

内容	時数	項目	視点	学習内容
1	1	講話	一連の学習の動機付け 自己の将来や働くことへの関 心を高めさせる (産業：観光)	「働く」ことや職業について考える 【講師】 カラカミ観光株式会社 根井様
2	1	講話の ふりかえり	講話をふりかえり、「働く」こと を現実的に考えさせる	講話を聴いた感想をグループ発表
3	2	事前レポ ート作成	事前計画をたてることで自ら の行動に責任を持たせ、体験 学習への意欲を高めさせる	職場体験を安全に、スムーズに行う たために移動計画を立て、当日の持 ち物や集合時間の確認等を自ら行う
4	1	依頼状 作成	適切な言葉遣いや言動をとる 態度を育てる	職場体験先への依頼状を作成
5	1	電話連絡	電話をかけるときの礼儀やマ ナー等を確認する	生徒自らが自分の職場体験先へ電話 連絡をする
6	1	マナー 講習	職場体験に向けて、社会で必 要なルールやマナー、社会で 求められる力について理解さ せる	外部講師を招いてロールプレイ等 を行う 【講師】 株式会社カナリヤ 森吉様 (職場体験先にサービス業が多いた め講師はサービス業界の方に)
7	6	職場体験	体験活動を通して働くことの 意義や職業の役割についての 理解を深めさせる	【体験先】 札幌市南区 学校周辺
8	1	お礼状 作成	ルールやマナーの意義を理解 させ、適切な言葉遣いや言動 をとる態度を育てる	文例考案、下書き、清書をしてお礼 状を作成する
9	1	レポート	体験活動をふりかえり自己を 見つめなおさせる	グループまたは個人でレポートを作 成する
10	1	報告会	自分が体験して感じたことを 人に伝え共有する態度を育て る	グループまたは個人で作成したレポ ートを発表する

### このプログラムで育まれる能力

4領域8能力全て

人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力  
課題対応能力、キャリアプランニング能力(基礎的・汎用的能力全て)

## モデル事例5 講話を中心とした授業（中学校）

◆学校名	恵庭市立恵明中学校
◆対象学年・人数	第3学年 147名
◆授業時数	事前1＋本時2＋事後1



内容	時数	項目	視点	学習内容
1	1	調べ学習	講師に興味・関心をもち効果的に聴講できるように準備する	・講師のプロフィールシートの中から質問を考える（クラスごと）
2	2	職業人講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講話から農業の中にも様々な職業があることを理解し、他産業へも興味関心を向ける</li> <li>・多様な考え方に触れることで自己の視野を広げ社会とのバランスを図る</li> </ul>	講師の皆様にご覧いただきながら講演をお願いする。 （生徒の興味・関心を元に職業人としてのメッセージをお伝え頂く） <b>【講師】</b> 株式会社えこりん村 太内様 株式会社 HM カンパニー 林様 株式会社森哲 矢萩様 ふれあい吉田農場 吉田様 株式会社コーンズエコファーム 谷様
3	1	ふりかえり	本時についてふりかえりを行い学びの共有を行う	職業人講話をふりかえり何を学んだのか視覚化する（個人） <b>【ふりかえりシートを用い各自行い数名による発表を行う】</b>

### このプログラムで育まれる能力

人間関係形成能力（自他の理解能力）  
 情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力）  
 将来設計能力（役割把握・認識能力）  
 意思決定能力（課題解決能力）

人間関係形成・社会形成能力、  
 自己理解・自己管理能力、  
 課題対応能力、  
 キャリアプランニング能力  
 （基礎的・汎用的能力全て）



## モデル事例6 討論会を中心とした授業（高校）

◆学校名	北海道函館中部高等学校
◆対象学年・人数	第1学年 238名
◆授業時数	事前1＋本時3＋事後2



内容	時数	項目	視点	学習内容
1	1	職業人講話	「当たり前」のことに新鮮な目を向け資源の発掘を行う	函館を知り尽くす2名の講師による講話 【講師】 函館デザイン協議会 渡辺様 函館まちづくりセンター 丸藤様
2	1	クラス討論会	講話を通して得た情報に対する自分の考えを持つ 話し合いへ主体的に参加する	～函館をPRする～4つのポイントで考える『ターゲット』『活用資源』『手法』『効果』（地域産業：観光）  「経営者だったら」「デザイナーだったら」「市民だったら」の視点でどんなPRが効果的かクラス単位で討論
3	2	全体討論会	全体で情報の共有を行い、幅広い視点を持つ	クラス代表が討論を行う ナビゲーターはプロ司会 最後に講評を頂く (新聞社・観光課の方など)
4	1	講演	本物のアントレプレナーに触れ自らの考えをふりかえる	「企業家・経営者の視点」でお話伺をう 【講師】 ラッキーピエロ社長 王一郎様

### このプログラムで育まれる能力

人間関係形成能力（自他の理解能力、コミュニケーション能力）  
 情報活用能力（職業理解能力）  
 将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力）

人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力（基礎的・汎用的能力全て）

## モデル事例7 ワークを中心とした授業（高校）

◆学校名	北海道函館西高等学校
◆対象学年・人数	第3学年 193名
◆授業時数	2

本時  
(使用時数)

メンタル  
トレーニング

(2h)

※事前、事後学習がなく単発の授業を実施した例

内容	時数	項目	視点	学習内容
2	2	メンタルトレーニング	社会での自立に向けて、コミュニケーション力の向上と感情のコントロール力を身に付ける	1. 独り立ちとは？ ・ グループディスカッション ・ 講義 2. 心理テスト 3. 感情のコントロール ・ 講義 ・ いい気分を保つワーク 4. 自己肯定感をあげる (セルフポートフォリオ)

### このプログラムで育まれる能力

人間関係形成能力 (自他の理解能力、  
コミュニケーション能力)

情報活用能力 (情報収集・探索能力)

将来設計能力 (役割把握・認識能力)

人間関係形成・社会形成能力  
自己理解・自己管理能力  
キャリアプランニング能力

## モデル事例8 企業・学校見学を中心とした授業（高校）

◆学校名	北海道南茅部高等学校
◆対象学年・人数	第2学年 29名
◆授業時数	1日（5時間）

本時  
(使用時数)

企業見学

(3.5 h)

学校見学

(1.5 h)

内容	時数	項目	視点	学習内容
1	5	企業見学 学校見学	企業見学と大学見学により、現在の学習と進路意識をつなぐ	株式会社竹田食品 有限会社魚長 を見学。 ⇒函館大学を訪問。 (大学概要説明、模擬授業、施設見学)

### このプログラムで育まれる能力

情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力）

将来設計能力（役割把握・認識能力）

キャリアプランニング能力

## モデル事例9 体験・見学を中心とした授業（高校）

◆学校名	北海道厚真高等学校
◆対象学年・人数	第1学年 39名
◆授業時数	事前3+本時1日+事後2

事前学習  
(使用時数)

環境の話

(1 h)

職業人講話+製作体験

(2 h)

本時  
(使用時数)

企業見学

(6 h)

事後学習  
(使用時数)

ふりかえりのまとめ

(1 h)

講演

(1 h)

内容	時数	項目	視点	学習内容
1	1	ガイダンス＋ 環境の話	意識付け 学習のねらい の共有 企業見学にもつ ながる環境問題に目を向 ける	ゲストティーチャーによる講義 【講師】 有限会社 キメラ 大野様
2	2	体験型職業人 講話	・ものづくり体験を媒介 し自動車産業の理解を深 める ・共同作業による成功体 験を通し、主体的に粘り 強い態度を育成する	☆講義 ・ 自動車産業の現状 ・ ものづくりという仕事 ・ 世界から見た日本の北海道の産 業分布と特徴 ☆ものづくり体験 ・ 鑄造作り体験
3	6	企業見学	ものづくり企業の見学を 通し自動車産業の理解を 深める	【見学コース】 アイシン北海道⇒トヨタ自動車北海 道⇒苫小牧港 ・アイシン北海道では、実際に体験 した内容がどのような形で仕事にな るのかを見学し話を聴く
4	1	講演	自動車産業の一連の流れ を理解し最終的にお客様 に一番近い仕事について 話を聞く	ゲストティーチャーとしてカーナビ 開発会社、自動車販売会社などから 角度を変えたお話をいただく
5	1	まとめ	今までの学習をふりかえり 自動車産業の理解を深め る	パワーポイントなどを使ってまと め、互いに共有する

### このプログラムで育まれる能力

人間関係形成能力（コミュニケーション能力）  
 情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力）  
 将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力）

人間関係形成・社会形成能力  
 課題対応能力  
 キャリアプランニング能力

## モデル事例10 企業見学を中心とした授業（高校）

◆学校名	北海道上川高等学校
◆対象学年・人数	第2学年 63名
◆授業時数	事前2＋本時1日＋事後1



内容	時数	項目	視点	学習内容
1	1	ガイダンス	一連の学習の動機付け 進路啓発学習である職場見学のねらいを理解した上で、今後の学習意欲を高める	一連の学習の説明 職場見学当日の日程確認
2	1	職業人講話	介護福祉産業とは何かを学び、企業見学への意欲を高める	介護、福祉の仕事や高齢者の現状について学ぶ 【講師】 上川町地域包括支援センター職員
3	6	企業見学	社会のしくみを理解し、将来働く自分の姿をイメージさせる 見学や体験を通して介護福祉産業について理解を深める	【旭川市内の職場見学】 ハローワーク旭川 ⇒旭川グランドホテル ⇒特別養護老人ホーム 誠徳園
4	1	職業人講話	就職の現状を知り、自分の進路について考える	新規高卒者を含め、旭川市および上川地区の就職に関わる現状を学ぶ 【講師】 ハローワーク旭川 職員

### このプログラムで育まれる能力

情報活用能力 (情報収集・探索能力、職業理解能力)  
将来設計能力 (役割把握・認識能力、計画実行能力)

課題解決能力  
キャリアプランニング能力



### 職場体験を通して学んだこと、また今後に活かしていきたい点は何ですか？

- 中途半端な気持ちでは、何事も中途半端に終わってしまうことや「はじめ」をつけることを学んだ。
- お母さんからお金をもらったりするとき、自分が職場体験で大変だったことを思い出して日々感謝しなくちゃと思った。(ごはんを作ってくれていることにも感謝！) お金の重さを考えて行動したい。(たった1円でも大事に使う！)
- 私が今回の職場体験学習で一番考えたことは「積極性」です。お客様がいらっしゃったときに「いらっしゃいませ」帰られるときに「ありがとうございます」そんな言葉が全然言えずすごく苦労しました。私自身がお店に行ったとき、聞き流していた言葉がこんなにも大変なんだと私は初めて実感しました。それを簡単に言えて、お客様に話しかけられる店員さんはすごいなと思います。私はこれから「積極性」というものを頭の中に入れ、行動していきたいと思っています。今回の学習で学んだことを必ず実行していきたいと思っています。

### 35時間のプログラムを通して学んだこと、感じたこと、自分が成長したこと、今後の目標などについて自由に書いて下さい。(内職中学校の生徒たち)

- 仕事についてちゃんと考えられるようになりました。実際に働いている方の話を生で聞いて良かったです。仕事について前まで「かせぐため」だけなど軽く考えていた部分もあったけど、今回のことを通して「いきがいを感ずるため」「人との関わりをもつため」などもっと違う意味が沢山あることを知ることができました。
- つらくない仕事なんてなく、つらい仕事をどうやって楽しく変えたり、乗り越えるかによって仕事を続けてられるかなどが決まるのかなと思いました。なので、今後はどんなに辛いことがあっても、めげずに乗り越えていこうと思いました。
- 今回学んだことは、人と協力することの大切さや、目上のお世話になる人に対するしっかりとしたマナーを学べた。感じたことは、マナーをきちんと守ってやることをしっかりすれば互いにいい印象を持てることに気づいたこと。成長したと思うことは、人と仕事などを通して仲良くなったり、人に対するしっかりとしたマナーが身に付いたこと。
- この35時間がなかったらこんなに仕事を意識することもなかったと思うし、「仕事」というもの自体もっと甘く見ていたと思います。これを通して仕事の大切さや大変さだけじゃなくて、進学したときのことばかり考えていたのがその先の就職のことまで考えられるようになって少し成長することができました。みんなと学ぶことができて楽しかったです！

### あなたにとって「仕事」「働くこと」とはどんなことですか？

- お客様に喜んでもらうこと。
- 生きていくために必要なこと。
- 仕事とは自分のためだけではなく、第一にお客さんのことを考えている人にしかできないものだと思います。  
働くことは、たくさんのことを考えて自分にできることを一生懸命にすることだと思います。
- 働くとは自分の役割も大切だけど人との関係も大切な場所だと思います。
- 人と接して自分を高めること。その人にとってのやりがい。



## 第三部 産業別事例紹介

1. 食品加工
2. 漁業
3. 観光
4. サービス
5. IT
6. 介護福祉
7. 農業
8. 自動車
9. 流通

産業別に分類した北海道内のキャリア教育実践事例をご紹介します。



食品加工とは…

食品が生産されてから消費するまでに受ける処理の総称。従来の食品加工は貯蔵・保存のためであったが、消費者の利便性のために調理時間を短縮し、生鮮物に対し比較的価格を安定させ、家庭内での調理では難しい味覚を提供している。

実施校	室蘭市立向陽中学校
対象学年（人数）	第2学年（4クラス 136名）
実施時期	2010年5月下旬～2011年1月下旬
プログラムの特徴	産業理解と仕事の奥深さを考慮したプログラム（35時間）
本時のプログラム	マナー講座、職場体験、企業見学
観点	◇地域産業理解および職業理解の深化 ◇職業の社会的役割の理解を通じた望ましい勤労観の育成
視点	◇地元企業の経営者や技術者等の講話や高い技術・技能を体感することで仕事の奥深さや魅力に触れさせる ◇体験の共有から幅広い職業理解につなげる ◇啓発的活動を通し主体的な活動意欲を育成する
ねらい	◇社会で働く大人と接することで、社会のルール働く意義を理解する ◇他地域にて実践を行う事で地場産業への関心と進路探求の意欲を高める
キャリア能力との関連	◇基礎的・汎用的能力すべての能力を活用 （人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力 課題対応能力、キャリアプランニング能力）
進路形成との関連	◇職業人としての将来像を意識した進路の現実的探索に繋げる
留意点	◇地場産業（1次・2次産業）と他地域（3次産業）の有機的なつながりに焦点をあて基礎固めに活かす

プログラムの構成



## 事前学習

今年度手がけた中で一番長い35時間のプログラムがスタート。ガイダンスでは、約8ヶ月に及ぶプログラムのねらいの共有、課題設定そしてテーマ別にグループ分けを行った。テーマは地域産業の理解から漁業・食品加工・流通・観光の4産業。これから35時間の学習の跡をしっかりと残していくため、一人ずつファイルが配られた。このファイルにたくさんの学びや喜びが綴られることになる。



最初は、勤労観の育成に繋がるため**経済の授業**。  
外部講師は北海道金融広報アドバイザーでファイナンシャルプランナーでもある横井規子氏。ニート・フリーターの現実や税金、社会保険、年金のしくみを学ぶ。普段中学校ではこのような経済の授業は実施されないので、ここで正しい理解を促し、今の社会で生きる上で必要な知識であることを自覚させるためには重要な授業になる。



次は**環境の授業**。  
外部講師に室蘭工業大学・大学院工学研究科の清水一准教授をお招きした。「自分が住む地域、そして地球の環境について正しい知識を身に付ける」と題した授業。室蘭発世界規模の環境の取り組みについて学んだ。「シブプリサイクル」島国、日本において切り離すことのできない問題について中学2年生の目線で最後まで楽しめる授業となった。環境を通し、働くことの意義や他との関わり、今大切にしたいことなど、キャリア教育の視点が盛り込まれており、地域資源の教材化となった。

そして、職場体験のグループ分けをし、**グループごとに地域産業の特徴の調査**をし始める。その後、事前学習のまとめと発表に入る前に、地域理解を深めるため地元有識者による講話の授業。

4産業から講師をお招きし、漁業は室蘭魚市場の嶋尾氏、食品加工は望月製麺所の泉田氏、流通は室蘭市港湾部の西館氏、観光は室蘭カレーラーメンの会・味しんの笹山氏。生徒たちは自分が学ぶテーマの講話以外も真剣に耳を傾け、意識の高さが伺えた授業であった。事前学習のまとめは、地域産業調べまでの学習を振り返り新聞にまとめる作業。レイアウトなども気をつけながら、それぞれ思い思いの新聞が出来上がった。

そして職場体験先への移動計画を立て、いざ礼拝へ…。

## 本時（マナー研修、職場体験）

2010年10月27日（水）

宿泊研修を利用した職場体験がいよいよスタート。生徒たちは室蘭を出発し札幌へ到着。まずは**職場体験に向けて直前のマナー研修**を実施した。

外部講師はパートナーズ研究所の土倉玲子氏。午後から職場体験という初体験をする緊張からなのか、子どもたちは真剣でおしゃべりする様子が全くない。授業の内容は土倉氏が考案し、「笑顔」「はきはき元気に」「挨拶の仕方」など基本的なマナーを学ぶ。企業訪問時の挨拶のロールプレイングの見本を行い、そんな中、率先して手をあげて皆の前でロールプレイングをやってみせた生徒。普段からムードメーカーなのか？一気に雰囲気は盛り上がり、これまでの緊張も解け笑顔いっぱいになった。その後、昼食をとり生徒たちは**グループごと各自で職場体験先**へ向った。



### ニ子口畜産株式会社

北海道を事業基盤としてハムやソーセージ、ハンバーグなどの加工食品事業を行っている。

セキュリティのあるドアから案内され、真っ白な清潔感あふれる調理室へ。生徒たちは男女3名ずつ白衣、白い帽子、白いマスクを着用しハンバーグ作りを体験。調理の方1名、助手の方3名がつき、牛豚混合のひき肉に調味料を均等に混ぜていき、混ぜ終わったら種をこねていく。種に空気が入らないように、少々乱暴に粘り気が出るまでこねていき、助手の方の笑いを交えて見本を見せてもらいながら、こねる体験は緊張感も解けて楽しい場になってきた。少々力が足りないようであったが、こねているうちにコツをつかんだようである。調理室の前にはテーブルセッティングがあり、「この後は試食させて頂けるんですか？」「はい、食べて頂きますよ！」ということで、生徒たちは自分で作ったプロの味を堪能することができた。



## 株式会社 北武フーズ

北海道産の素材を使い水産加工食品、漬物製造販売、菓子販売を行っている。

工場の玄関に入ると、2階に上がりそこからくねくねとした長い道を歩いていき…たどり着いたのは工場の中であった。白衣、白い帽子、白いマスクを着用し準備完了。金属探知機のようなベルトコンベアに乗ったパック詰めされた商品がどんどん流れてくる。生徒たちはこれを順番にトレイへ並べる作業の体験をやった。皆、真剣な眼差しでテキパキと手際よく作業する。商品が店頭へ並ぶ直前の作業をすることができた。その後は魚のすり身を作り、試食することもでき皆満足した様子であった。



## 本時（企業見学）

2010年10月28日（木）

宿泊研修2日目は企業見学でまずは始めは**三井アウトレットパーク北広島**へ。北海道で3つ目にできたアウトレット。商品に関して、昨年場合は1年遅れだったものが今年は2ヶ月のものもあり、普通の小売店と大差ない展開である。生徒たちはまず最初に「アウトレットとは？」など全体の概要説明を聞いた。流通でも普通の小売とは違う形態を知ることができた。

その後はクラス別にお店がたくさん並んでいるフロアとバックヤード（防災センター、ごみ庫、荷割き所、従業員休憩室、オペレーションセンター、ロッカールーム）を見学。

三井アウトレットパークでは、地域の特色を活かしたイベントなどショッピング以外の楽しさも提供している。

生徒たちは、地場産業とは違う他地域での産業に触れることができた。



昼食をとり、次は**岩塚製菓千歳工場へ**。

新潟に本社をもつ米菓の製造、販売を行っている企業。有数のコメの産地である北海道に、全国に届ける流通の拠点として進出して今年で20年目になる。

生徒たちは試食のあと、出来立ての味と数日たってから口に入る市販の違いを実感し、「米菓は生鮮品」の言葉に大きく頷いていた。岩塚製菓の米菓の賞味期限は4ヶ月だが、製品により新鮮なものを選んでほしいというこだわりから、賞味期限ではなく製造年月日を記載している。

TPS（トヨタ生産方式）を取り入れ、必要なときに必要な分だけ作ることを実践し、無駄なく生きた製品を出荷している。

子どもたちにとって、空閑ではあまり触れることのない食品加工工場の見学を通して、宿泊研修としても思い出深い内容になった。



-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

## 35時間通してのふりかえり

### 職場体験を通して学んだこと、また今後に活かしていきたい点は何ですか？

- 中途半端な気持ちでは、何事も中途半端に終わってしまうことや「はじめ」をつけることを学んだ。
- お母さんからお金をもらったりするとき、自分が職場体験で大変だったことを思い出して日々感謝しなくちゃって思った。（ご飯を作ってくれたりしていることにも感謝！）お金の重さを考えて行動したい。（たった1円でも、大事に使う！）

### 35時間のプログラムを通して学んだこと、感じたこと、自分が成長したこと、今後の目標などについて自由に書いて下さい。

- 仕事についてちゃんと考えられるようになりました。実際に働いている方の話を生で聞いてよかったです。仕事について前まで「かせぐため」だけなど軽く考えていた部分もあったけど、今回のことを通して「いきがいを感ずるため」「人との関わりをもつため」などもっと違う意味が沢山あることを知ることができました。
- つらくない仕事なんてなく、つらい仕事をどうやって楽しく変えたり、乗り越えるかによって仕事を続けてられるかなどが決まるのかなと思いました。なので今後は、どんなに辛い事があっても、めげずに乗り越えていこうと思いました。
- 今回学んだことは、人と協力することの大切さや、目上のお世話になる人に対するしっかりとしたマナーを学べた。感じたことは、マナーをきちんと守ってやることをしっかりすれば互いにいい印象を持てることに気づいたこと。成長したと思うことは、人と仕事などを通して良くなったり、人に対するしっかりとしたマナーが見に付いたこと。
- この35時間がなかったらこんなに仕事を意識することがなかったと思うし、「仕事」というもの自体もっと甘くみていたと思います。これを通して仕事の大切さや大変さだけじゃなくて通学した時のことばかり考えていたのがその先の就職のことまで考えられるようになって少し成長することができました。みんなと学ぶことができて楽しかったです！

### あなたにとって「仕事」「働くこと」とはどんなことですか？

- お客様に喜んでもらうこと。
- 仕事とは自分のためだけでなく、第一にお客さんのことを考えている人にしかできないものだと思います。働くことは、たくさんのことを考えて自分にできることを一生懸命にすることだと思います。
- 生きていくために必要なこと。
- 働くとは自分の役割も大切だけど人との関係も大切な場所だと思います。
- 人と接して自分を高めること。その人にとっての生きがい。

漁業とは…

海面（海）および内水面（河川・湖沼）において、魚介類・クジラ等の水産物の漁を行うことによって収穫する職業、あるいは業種。水産加工業などとともに水産業の一種である。また、この漁業で漁撈活動に専業として携わる者のことを漁師という。 Wikipediaより引用

※プログラムは〈食品加工〉室蘭市立向陽中学校と同じものです。  
室蘭市立向陽中学校の職場体験での、「漁業」産業の事例です。

本時（職場体験）

場外市場中心街漁業組合

数多くの店舗が軒をつらねる市場。全道各地から新鮮な海産物が集まる札幌中央卸売市場の南側にあり、そこから毎朝新鮮な海の幸・山の幸が入荷するため、札幌市民はもとより観光客にも大人気の市場となっている。



あいにく前日から降った雪が積もった中、市場へ向かう生徒たち。ジャージ持参はしていたものの、上に羽織るものがなく、市場という立地上ドアのない店舗での職場体験は、少々厳しい体験となった。



数多くの店舗が連ねる中、班ごとに店舗に配置され、早速体験開始。

北のグルメ

北のグルメでは、従業員用のジャンパーを貸していただき、お店の方から商品説明を受け、トラバガニをゆでる体験をした。



## 岩本商店

岩本商店では、商品の包装の仕方を体験し、試食などもさせていただいた。袋詰めや、パンフレットを折ったり、また「いらっしゃいませ！」のお客様を迎える体験も。寒い中、職人たちは終始笑顔で接していたこと、色々な話もしてくれたこと、「頑張ってくれた」と、お土産もいただいたことなど、職人との会話や接したことが、何よりも宝になった。



## 佐藤水産

北海道を事業基盤として高品質海産物専門店を展開している。

市内でも少し距離がある場所にあるため、まとまってバスで到着。佐藤水産の代表的な商品、「鮭醤油」の製造から瓶詰めまで体験した。醤油とは大豆からできるものと思っていたが、鮭から醤油？と生徒たちも驚きを隠せない。鮭の内臓と身に含まれる酵素で、魚自身の動物性タンパク質が分解されることによって造られるとのこと、醤油の原料を混ぜる。その後瓶詰めや、ラベル貼りなど鮭醤油ができるまでの行程を体験した。生臭さの全くない鮭醤油で作った「醤油ラーメン」が格別だった。

鮭醤油ができるまでの長い行程の大変さと、また職人のお話や会話が生徒の心をぐっと掴み、「毎日がこんな授業だったらいいのに」という生徒の声。一つの商品が出来上がる行程と、その職人との会話は貴重な職場体験となった。





観光とは…

一般的には「日常の生活では見ることのできない風景や風俗、習慣などを見て回る旅行」のことを意味したが、旅行の安全性や快適性が進むにつれて、遊覧や保養のための旅行など「楽しみのための旅」全般をさす言葉として広く使用されるようになった。

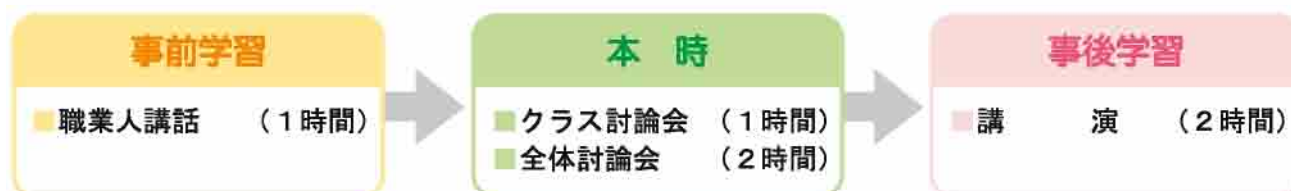
観光産業は旅行業、宿泊業、飲食業、運輸業などいわゆる観光関連業種のみならず、1次産業、2次産業にも関連するすそ野の広い産業であり、他の産業へ波及する経済効果も大きいことから、北海道経済のリーディング産業として、より成長していくことが期待されている。

実施校	北海道函館中部高等学校
対象学年（人数）	第1学年（238名）
実施時期	2010年10月下旬～11月上旬
プログラムの内容	職業人講話、討論会、講演
プログラムの特徴	「函館の今を生きる偉人たちの『目』その視点には何が…次代を担う函館中部高校生に伝えたいこと」を考慮したプログラム
観点	◇ 郷土理解の深化とグローバル視点の育成
視点	◇ 多様な人生観に触れることで豊かさのあり方と社会的責任の重要性を考える
ねらい	◇ 講話を通し自己のキャリア発達を意識的に客観視できる力を養う ◇ 情報を整理し再構築したうえで、更に発展させることが出来る力を養う ◇ 地域人財としてあるべき姿や地域の可能性を見出せる力を育成する
キャリア教育との関連	◇ 情報活用能力（情報収集・探索能力） ◇ 将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力） ◇ 意思決定能力（選択能力・課題解決能力） ⇒ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">キャリアプランニング能力</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題対応能力</span>
進路形成との関連	◇ 地域人財として多角的な視点を持ったリーダーシップを身に付け地域の将来を担う

学習テーマ

「函館をPRする」～函館、そして北海道の将来を担う人材として、函館の強みを活かしポテンシャルを最大限に引き出すにはどんな視点が必要か達人による“3つ”の視点（経営者・市民・専門家）で函館に迫り、活用の切り口を学ぶ

プログラムの構成



# プログラムI

## ■ 職業人講話 ～「函館をPRするプロの視点を学ぶ」

**実施日** 2010年10月14日(木)

**ねらい**

- ・課題達成のためのエッセンスを講話から聞き取る
- ・自分が見ている函館とPRのプロが見る函館、視点の違いに着目し効果的なPRができるよう自己と他者の情報を再構築する。

**外部講師**

### ① 函館デザイン協議会 会長 渡辺 龍治 氏

函館デザイン協議会は、さまざまなジャンルのクリエイティブシーンで活躍するクリエイターが集まり、「発表する場」「研鑽する場」を設け、さまざまな専門分野にとらわれない幅広い交流の中で、函館周辺のデザイン活動を盛り込むことを目指している。また、地域社会とデザインを結び、豊かな生活を創造することを目的としている。

渡辺会長は、自身のデザイン事務所でグラフィックデザイナーや空間造形を担当。

### ② 函館市地域交流まちづくりセンター センター長 丸藤 龍 氏

函館市地域交流まちづくりセンターは、市民交流やNPOなどの市民活動の支援、観光案内をはじめ地域情報の発信を通じ、函館地域のコミュニケーションやまちづくり活動をサポートしている。

**学習内容** 外部講師による講話「函館をPRするプロの視点を学ぶ」

**授業の様子**

函館デザイン協議会の渡辺氏は、スクリーンに様々なポスターのデザインを映し出しビジュアル中心のお話。最初から最後まで見て実感できたことは、ポスターのデザイン手法は時代によって変わってくるということ。そして最後は「デザイナーにならなくても、全てものはデザインされている」という熱いメッセージを伝えて頂いた。

まちづくりセンターの丸藤氏は、大学で講師もされているので非常に話が聞きやすい。市民の視点からお話して頂き、

まず市民にとって今大切なのは「居場所」ということ。その心地よい居場所をつくるためには、元々ある地域の魅力を活かして街づくりやPRをすることが必要なもので、これからの皆さんがチャンスです！と生徒たちにエールを送って頂いた。自分が好きなもの、興味あるものをどのように使っていくかという視点が重要で、その視点をもつためには、現場で体験し、現場でものを考えることが大事だということが最後のメッセージであった。



## 生徒の感想

印象に残った言葉は渡辺さんの「世の中のもの全てがデザインである」。今の物に囲まれた世の中では見過ごされがちかもしれないけど、全ての物の形や色には必ず意味があるし、もの以外の文章や音楽も一つ一つ考えられた上で作られていることを思うと、全てデザインであるといえるし、自分も何気ないところでデザインを行っていると感じた。そう考えると、デザインは実はものづく身近で誰でも関われる大衆文化の一つだと思う。

函館を一言で言うと「ロマン溢れるあたたかい街」。函館には渡辺さんや丸藤さんをはじめ色々な方が函館のために頑張っていて、とても愛されている街なのでこのフレーズにしました。外から来た人も、こんな風に思ってくれるような街になっていくといいなと思います。

印象に残った言葉は渡辺さんの「好きじゃない仕事をやらなければならないのがデザイナーの葛藤」。そのことはデザイナーだけでなく、他の仕事にも当てはまると思うので、仕事は好きなものだけじゃなくて、我慢や好きな努力が必要だと思いました。

印象に残った言葉は丸藤さんの「Dream Imagination Game」。「魅力的な街」を作っていくために、昔からポスター、観光などの活動に対して創意工夫を働かせ、より良い環境、住みやすい街、楽しく安全な街をつくっていくための努力を積み重ねてきた結果、今の函館があるんだと改めて実感した。

## プログラムII

### クラス討論会

実施日 2010年10月27日(水)

ねらい

- ・講話を通して得た情報に対する自分の考えを持つ
- ・話し合いへ主体的に参加する
- ・クラス代表を選抜する(3名)

学習内容

- ・「経営者だったら」「デザイナーだったら」「市民だったら」の視点でどんなPRが効果的かクラス単位で討論を実施
- ・4つのポイント「ターゲット」「活用資源」「手法」「効果」で考える

### 授業の様子

クラス内で8グループに分かれ、進行役の司会のもとに事前に考えてきた自分のアイデアを一人ずつ発表。発表を聴きながら、適宜メモを取り、お互いの意見の内容を把握。相互に評価し、グループの代表を選出。「経営者だったら」「デザイナーだったら」「市民だったら」のそれぞれの立場ごとに、代表がクラスで発表し、どちらの発表がクラス代表としてふさわしいか、代表を選んだ。みんな事前の準備が良かったので、短い時間の中できちんとグループの意見をまとめることができていた。今回のクラス討論会はグループディスカッションにほぼ近い方法である。グループディスカッションは近年の新卒採用試験でよく取り入れられるようになった。組織における人間関係構築力、組織としての課題解決力、「聴くこと」も含めたコミュニケーション能力が、人材要件として求められている。

## 生徒が考えた函館PR文

私は函館の四季を活かしたイベントを企画したいと思います。春、秋は主に函館山散策、緑の島で体を動かし、観光客、市民とともに函館の心地よさを伝えたいです。夏は皆さんが知っているように港祭りをもっと盛り上げるようにサポートします。例えば、いかを使った料理のコーナーを作り食べてもらいたいです。

今、時代は歴史ブーム。土方歳三や五稜郭をはじめとしたたくさんの歴史をもつ函館は今が大きなチャンスです。そこで「メイドカフェならぬ歴史カフェ」を提案します。江戸時代をイメージにした店内には1階に女性客を狙って侍妻の男性が、2階には男性うけを狙って着物を着た女性がウエイトレスをつとめ、一緒におしゃべりや写真撮影を楽しみます。



## プログラムⅢ

### 全体討論会

実施日 2010年10月28日(木)

ねらい

・全体で情報の共有を行い、幅広い視点を持つ。

学習内容

- ・クラス代表がみんなの前で討論を行う
- ・ゲストから観評を頂く

### 授業の様子

「経営者だったら」「デザイナーだったら」「市民だったら」の各視点についての討論をクラス代表で合計6名ずつ、みんなの前で行った。討論を進行する司会は函館市地域交流まちづくりセンターの丸藤氏。一人一人紹介される時は、バックにクラスの仲間がいるので非常に盛り上がり、発表者もあまり緊張せずしっかり意見を述べていた。歴史カフェを運営する、五稜郭タワーをオレンジ色に塗る、いか型の椅子など家具を作る、市民と観光客のホームページを作る・・・など色々なユニークなアイデアが出された。もっと時間があれば、PowerPointなどを作って発表すると発想力や表現力をより身につけることができるであろう。ただ今回のような「自分の意見をアピールする」という授業は非常に重要である。日本人は自分をアピールすることが苦手とよく言われるが、グローバル社会で生きていくために必要な姿勢を高校生のうちから少しずつ身につけていかなければならない。



## 講評して頂いたゲスト

- ・函館デザイン協議会 渡辺 氏
- ・北海道新聞社 伊藤 氏
- ・函館市観光コンベンション部 平井 氏

## 講評を聞いた生徒の感想

印象に残った言葉は渡辺さんの「どのような方法で宣伝に注目してもらうかを考えるとよい」。宣伝をするだけでは、その宣伝に気づいてもらえない可能性があることに気づいたし、注目してもらえる方法はどんなものがあるかということをしっかり考えたいと思った。

印象に残った言葉は平井さんの「人と触れ合うために人は旅をする」。観光という職業に携わっている方が話された言葉で、とても説得力があり感動した。函館の観光業の人は、その人との触れ合いを大切に、観光に訪れた人々に良い思い出を提供しているのだなと改めて感じた。多くの人が訪れる街の一人として、あたたかく迎え入れるようになりたい。

印象に残った言葉は平井さんの「函館市民が楽しめるものでないと観光客も楽しめない」。観光のためにある街ではないので、まずこの函館に住んでいる私達からこの街を楽しみ、そして好きになることが大事だと思いました。私も実際は限定された所しか知らないと思うので、もっと自分も函館を知っていきたいと思います。

# プログラムⅣ

## ■講演会 ～「起業家・経営者の視点から」

**実施日** 2010年11月4日(木)

**ねらい**

・本物のアントレプレナーに触れ自らの考えを振り返る

**外部講師**

**ラッキーピエロ 社長 王 一郎 氏**

北海道函館市を拠点として運営するハンバーガーショップチェーン店。全国ご当地バーガーNo.1に輝いたことで北海道だけではなく全国的にも注目を集めている。

<http://www.luckypierrot.jp/>

## 授業の様子

今回は「函館をPRする」をテーマに取り組んできたプログラムの締め括り。子どもたちにとって大変身近な存在でもあるラッキーピエロの王社長による講演会で幕を閉じる。

地球環境に優しい企業姿勢と地場の食材をできるだけ多く利用する「地産地食」の話からスタート。子どもたちは将来会社を選ぶポイントはどこにあるのかを学んだ。「成功するにはどうすればよいのか？」というテーマのときは熱意を持続する、プラス発想する、プラス発想の人と付き合う…など子どもたちがすぐにでも実行できそうな姿勢、考え方を伝えた。

## 生徒の感想

今日の講演で一番印象に残ったのは「一番をとれ」という言葉です。私は今、一番になりたいと思っているものがあります。今まではそれほど強く思ったことはなかったですが、今成功している王さんの言葉はすごく心に響きました。だから今日聞いた言葉を信じて頑張ります。勉強ももっと頑張ります。

私は「夢は必ず叶う」ということにこれまで少し疑問を抱いてきたが、今日それが確信へと変わった。王社長という前例がいるからだ。努力を怠らずに頑張り続ければ信じられないくらいに人は変わるものなんじゃないかと初めて考えた。

王さんの「高校や大学では勉強の仕方を勉強し、社会に出てからは生涯学習をする」という言葉を聞いてとても納得することができました。これからはただ教科の勉強をするのではなく、社会に出てからの自分をイメージし、それに向けて勉強の仕方を勉強しようと思います。



サービスとは…

経済用語において、売買した後にモノが残らず、効用や満足を提供する形のない財の事である。サービス産業は第三次産業と同義で、エネルギーや通信、運輸や卸、小売業も含む。北海道におけるサービス産業は、道内総生産・従業員数の約8割を占めている。 Wikipediaより引用

実施校	北広島市立大曲中学校
対象学年（人数）	第3学年（200名）
実施時期	2010年7月中旬～8月下旬
プログラムの内容	講演
プログラムの特徴	「北海道で活躍する大人の生き様に触れる」を考慮したプログラム
観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 豊かな人生観を育み、主体的な進路選択へ意欲関心をより高める</li> <li>◇ 職業理解を深め、幅広い職業観・勤労観を育成する</li> </ul>
視点	◇ 社会で生きる大人と直接触れ合うなかで、企業の理念や働く人々の思い、生き方が多様であることを知る
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 社会のルールや働く意義を理解する</li> <li>◇ 商品やサービスに込められた思いについて理解を深める</li> <li>◇ 自分はどんな生き方をしていきたいのか、自らの価値観を見つめ直し、充実した生き方を追及する意欲を育てる</li> </ul>
キャリア教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 基礎的・汎用的能力すべての能力を活用 (人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力 課題対応能力、キャリアプランニング能力)</li> </ul>
進路形成との関連	◇ 職業人としての将来像を意識した進路探究に繋げる

プログラムの構成



プログラムIIの外部講師

日新堂印刷株式会社 代表取締役 阿部 晋也 氏

札幌市豊平区にある小さな印刷会社。印刷所で名刺の印刷と言えば「たかが名刺」の代名詞であるが、この会社は逆に名刺を強みにしている。

漁上国で伐採し、不要になったパナナの茎でつくる「パナナペーパー名刺」や「ペットボトル再生名刺」を開発。そのエコ名刺を障害者の方たちが「点字付きエコ名刺」に変え、イキイキ働く場を提供しながら、売上げ一枚につき一円を日本盲導犬協会などへ寄付する仕組みを考案した。いまや北海道以外の顧客が8割で、エコ名刺は月に500～600点の勢いで売れ続けている。

## なぜ阿部社長を外部講師としてお招きしたのか

当NPOのコーディネーターが「経済ナビ」というテレビ番組で見たのが阿部社長を始めに知ったきっかけであった。経営の考え方や会社のあり方そのものが評価されている社長であれば、きっと子どもたちに感動を与える話をしてくれるのでは?と思い、さっそく大曲中学校の先生に提案した。すると、偶然なことに先生も阿部社長を知っていたのである。「ちっちゃいけど、世界一誇りにしたい会社」という本を先生が読んでいて、そこに阿部社長のことが紹介されていたのだ。先生もぜひ講演してほしいということで、コーディネーターがその後すぐに直接阿部社長に連絡をとり、今回ご了承頂いたという経緯になっている。

## プログラムI

2010年7月14日、各クラスの担任による授業で事前学習が行われた。講演前の動機づけとして、名刺の働きや機能について理解し自分で名刺を作るプログラム。日新堂印刷で作られているエコ名刺はバナナ、とうもろこし、ペットボトルが原料となっている。子どもたちに各1枚ずつ配られ、そこに自分でデザインした。この名刺は職場体験に行く際に持っていくことになっている。

## プログラムII

2010年7月16日、日新堂印刷株式会社の阿部社長による「商品に込められた想いを知ろう」と題した講演会が行われた。「商品やサービスに込められた想いを理解する」「働く意義や職業の社会的役割を考えるきっかけとする」「自らの価値観を見つめ直し、充実した生き方を追及する意欲を育てる」をねらいとする。講演会はライフストーリーを中心とした阿部社長の自己紹介から始まり、エコ名刺や理想の会社像、そしてたくさん失敗することの意義についての話だった。「成功の反対は失敗じゃなく、何もしないこと」「若いときにたくさん失敗した人ほど、大人になると輝く」など子どもたちの心に響くメッセージが伝えられた。その後は阿部社長、生徒代表5名、先生によるトークセッション。エコ名刺に関する質問だけに留まらず、阿部社長の中学生時代のことも聞く生徒も何名かいた。「働く大人」との触れ合いは、子どもたちにとって大きな収穫となるのだ。



## 生徒の感想

たとえ名刺でも一つ一つ大切にすることで、出会いが大きく変わるんだなと思いました。

阿部社長の「成功の反対は何もしないこと」という言葉が印象に残りました。諦めないで何事も頑張ろうと思いました。

「やってみる、チャレンジしてみることが大切」という言葉が印象に残りました。

色々なことにチャレンジすること、大変なことでもやってみることが大切なんだということがわかりました。



## プログラムⅢ

### プログラムⅢの外部講師

#### ■ 株式会社きのとや 佐藤 誠 氏

札幌にある洋菓子専門店。ケーキの宅配を全国で初めてスタートさせたことでも有名。

#### ■ 西山製麺株式会社 西山 亨 氏

北海道の「食文化」であるサッポロラーメンの元祖である麺をつくり続けている。

#### ■ 株式会社カナリヤ 森吉 泰文 氏

北海道で有名な生地・洋裁手芸・クラフトの専門店。

※今回のテーマが「北海道で活躍する大人の生き様に触れる」なので、北海道企業で活躍されている方をお呼びした。

2010年8月26日、3名の職業人の方にお越し頂き講演会を実施。会社の商品やサービスへの思い、企業が求める人材、仕事のやりがいや取り組み方、そして中学3年生の生徒たちへのメッセージを一人ずつ語っていただいた。今回はケーキやラーメン、手芸用品をそれぞれ扱っている企業なので、子どもたちにとっても身近な商品ということもあり講師の投げかけにもよく反応していた。



### 最後は質疑応答タイム



「佐藤さんはケーキを  
作りますか？」  
「カナリヤで働こうと思った  
きっかけは何ですか？」  
「中学生のとき大切にしてい  
たものは何ですか？」



子どもたちは多くの働く大人に出会うにつれ、様々な視点から質問ができるようになっていた。

### 生徒の感想

森吉さんの「できない、無理」などのマイナスの言葉ではなく、プラスの言葉を使うと人がよよってくるという言葉が印象に残りました。プラスの言葉を使うことで周りも良い雰囲気になるし、自分の気分も良くなると、とても感じました。

佐藤さんの「幸せづくりのお手伝い」という言葉が印象に残りました。自分たちが他人の幸せをつくるのではなく、そのお手伝いというのがいい言葉だと思った。

西山さんの「長所をみがく」という言葉が印象に残りました。いくら努力しても短所を改善するには限度があるが、長所はいくらでも伸ばせると思う。あまり長所が多くないから、数少ない長所を思いつき伸ばしたい。

森吉さんの「できない、無理はそれで終わり。できると思えばそれから進める」という言葉が印象に残りました。難しいことでも無理だと思っていたら何もできないから、できると思うこと。できると思えば、そのために何をすればいいのかを考え、進んでいけると思った。

自分に足りないものを見つけて、いい所を増やして、将来立派な人間になれるように努力したい。講演会では、学ぶことがいっぱいある。もっと色々な人の話が聞きたいと思った。

3人とも関わりはないのにみんな最後は同じことを言っていた。共通点は働いているということで、どの仕事も謙虚になったり、素直だったり、積極的になったりすることが必要だと言っていた。これからはこれらを意識して、生活できればいいと思う。

社会に出ても、「笑顔」や「プラス発想」、「積極的」そして「謙虚」でいることはとても大事なんだなと感じました。そして自分の好きなこと、得意なことを見つけて、これから伸ばしていきたいと思えます。受験生としてあとから後悔しないように、今を一生懸命にやっつけていこうと思います。

みんなすごく良いことを言っていたので、日常的な面でのことや勉強についてなど考え直すことができたのでよかった。

学校で教えてもらう勉強は大人になったら絶対に役立つと言っていたので頑張りたいです。

今回のプログラムを考えると、大曲中学校の先生から2つの思いを伝えられた。一つは挨拶やマナーなど「きちんとした自分を演出する大切さ」を社会で活躍されている方から具体的に伝えて頂きたい。2つ目は、この授業を通して生徒に「感動」を体験させたいということ。最初に提案した企業は先生の思いに合致せず、また別の企業を探すという方向になった。これは生徒のことを一番よく理解していて、この授業にかける思いが強いからこそだからであろう。初めての打ち合わせ時では、先生は子どもたちに何を身に付けてほしいと思っているのか、学校の特徴や子どもたちの実情はどうか、今までどのようなキャリア教育に取り組んできたのか…などしっかりと聞き取りをすることが何より重要である。

IT産業とは…

コンピュータメーカーや通信事業者、ソフトウェアメーカー、システムインテグレータなど、情報・通信技術に関連する産業を総括した名称。コンピュータやその周辺機器の製造・販売、ソフトウェアの開発や販売、ネットワークの構築、通信サービス、企業の情報システムの構築など、非常に幅広い分野を含む。  
IT用語辞典 e-Wordsより引用

実施校	札幌市立青葉中学校
対象学年（人数）	第2学年（86名）
実施時期	2010年8月～11月
プログラムの内容	IT講義、マナー研修、職場体験
プログラムの特徴	職場体験学習を中心に、仕事の奥深さを体感することを考慮したプログラム
観点	◇職業の社会的役割の理解と幅広い職業観の育成 ◇将来の生き方に関する現実的探求
視点	◇ 職場体験を中心とした学習を通して、さまざまな仕事があることや、働く人々の想いを知り、自己の進路に対して関心・意欲をより高めさせる ◇体験の共有から産業理解を深め、社会の成り立ちを学ぶ
ねらい	◇社会で働く大人と接することで、社会のルールや働く意義を理解する ◇働くことに関心を持ち、主体的に将来の生き方を考える
キャリア教育との関連	◇基礎的・汎用的能力すべての能力を活用 (人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力 課題対応能力、キャリアプランニング能力)
進路形成との関連	◇職業人としての将来像を意識した進路探究に繋げる

プログラムの構成



外部講師

Encグループ 株式会社 北海道情報技術研究所  
電子開発学園 メディア教育センター 安倍 隆氏

・昨年、苫小牧経済高校のIT企業プログラムにおいて模索したところ、北海道情報大学へのコンタクトが実現しましたが日程の調整ができず、北海道情報大学より、電子開発学園 メディア教育センター 安倍 隆氏をご紹介いただいた。

安倍講師より、苫小牧経済高校の情報処理科のキャリア教育として、技術の多様化、IT技術環境の変化に対する理解を深め学習活動や進路探求へ主体的に取り組む力の育成を行っていただいた。

- ・本年度の「産業別プログラム」で、今回の場合は中学2年生のプログラムであるが、安倍講師より「中学生への授業ということでまったく経験がなく、手探りの状態です。3時間ほどの授業であれば、何が伝えられるかを考えてみました」と、絶大なご協力の元に、昨年度の情報の高校生向けプログラムを中学生向けにプログラム開発していただいた。  
その後、札幌市立青葉中学校の木下先生と打合せを行いながら、共に授業を作っていくという視点で、本年度のIT産業プログラムにも講師としてお引き受けいただいた。
- ・ねらいに沿っての3時間の授業案の中で、各1つずつの3つのテーマの授業案とする中で、私どもは安倍講師へIT産業の理解ということで、「ITのお仕事」の授業案を依頼させていただいた。その前後に安倍講師の立案により、IT業界で働く人や、世界でのIT産業という視点から、「身の回りのあるコンピューター」「ITで世界を救う？」の授業案となり、IT業界に興味を持つテーマを講師とともにプログラムを開発し、IT業界の仕事とは？という内容へつなげるプログラムとなった。
- ・安倍講師の生徒たちへ伝えたい！という想いが授業という形になり、ITによってどのようなことが実現されるのか、社会にある事例を挙げながら説明することができるという学習目標を確立したといえる。安倍講師の授業後は、実際に職場体験として数名、講師のいらっしゃる電子開発学園メディア教育センターへITの仕事を経験した。

## プログラム

### ■ IT講義「働く」ことや職業について考える（計3回実施）

#### 学習目標

- ・ ITによってどのようなことが実現されるのか、社会にある事例を挙げながら説明することができる
- ・ IT産業で働く人々は、どのような仕事をしているかを説明することができる
- ・ IT業界に興味を持つ

#### 1. 「身の回りのあるコンピューター」

- ・ グループごとに「私たちの身の周りにあるコンピューター」を書き出させ、発表
- ・ 「コンピューターとは何か」定義、システムの事例紹介
- ・ コンピューターの歴史（急激な進歩と小型高性能）

#### 2. 「IT業界で働く人ってどんな人？」

- ・ IT業界で働く人へのインタビュー、ビデオ視聴もしくは講話
- ・ IT業界で働く人に必要な能力とは

#### 3. 「ITで世界を救う？」

- ・ 世界中の人に教育の機会を（コンピューターを利用した遠隔教育）
- ・ 環境問題を解決（ITの特徴、脱物資、無限性）

1 回目実施日 2010年 8月25日 5時間目

### テーマ「身の回りのおあるコンピューター」

クイズ形式にクリッカー使用で、アンケート結果がすぐに反映される

- ・ IT業界で仕事をしたい人は？
- ・ コンピューターを使ったことある？
- ・ 自宅にコンピューターは何個ある？
- ・ コンピューターはいつ発明された？

#### 授業の様子

コンピューターといっても、携帯から家庭の電子レンジ、冷蔵庫まであり、「これもコンピューターが入っているの？」と驚きの生徒たち。中には「お父さんが好きで、家じゅう配線がたくさんあります」など、ITを身近に感じている生徒もいた。

次に、コンピューターの歴史、コンピューターの定義、コンピューター・システムの事例紹介などの授業となり、

- ・ 私たちの身の回りにはたくさんのコンピューターがある
  - ・ コンピューターによって、便利で楽な生活や楽しい生活がおくれるようになった
- と1回目授業の終わりを迎えた。生徒たちは自宅へ帰り、家じゅうのコンピューターを探したのではないか。ITに関する興味も持ち、次回の授業を心待ちにしている様子がうかがえる。



#### 生徒の感想

コンピューターの話は難しかったけど、アンケートみたいのをとりながらやったので、楽しく聞くことができました。まだハッキリとコンピューターのことにはわからないけれど、これから話を聞いて理解していきたい。

父の仕事がIT関係なので、とても興味深く聞くことができた。リモコンを配って質問に答えるやり方が、やりやすくて新鮮だった。次回も楽しみだ。

話の内容が難しかった。

いろいろなタメになる話をきいてIT会社もいいかなあと思いました。けど、あと2回でもっとITを知りたいと思いました。次回も楽しみです。  
・ もっと難しくてもいいのでくわしく知りたい。

最初全然興味がなかったけど、話を聞いてすごく興味がでてきました！

私は普段何気なくコンピューターを使っていますが、今回、「ITってなんだろう」という講演を通して、身の回りには思ったより多くコンピューターが存在しているのだからということが良くわかりました。今回の公演会、とてもわかりやすくて楽しかったです。

- ・これから世界はどうなるのか？
- ・コンピュータープログラムを書き換えるのはどうやるのか気になった
- ・パソコンは最初なんのために作られたのか？
- ・なぜコンピューター進化され続けるのか

2回目実施日 2010年 9月1日 5時間目

**テーマ・IT業界ってどんな人？**  
**・IT業界の人はどんなことができないといけないのか？**

前回と同様に、クリッカー使用でクイズ形式に進める

※職業分類4分野の講義

- ・情報システム系
- ・医療情報系
- ・マルチメディア系
- ・ビジネス系

**IT業界で働く人へのインタビューのDVD視聴**

\*主なインタビュー項目

- ・仕事内容
- ・学校のやりがい（楽しいこと）や、大変なところ
- ・学校ではどんな勉強をしたか
- ・学校で勉強して役立っていること
- ・今後の目標
- ・ITを勉強する人へのメッセージ

**授業の様子**

いよいよ、IT業界の仕事に関する授業になる。それぞれのITの職業の分類の講義があり、その後、それぞれの分野で働く人へのインタビューのDVD視聴。こんな仕事があって、そこで働く人たちの声があり、具体化されて脳裏に残ったのではないかなと思う。

まとめとして、

IT業界で働く人に必要な能力とは？との講義では、仕事は1人ではできない。ITでのプロジェクトのリーダーになるには、コミュニケーション能力が必要。コミュニケーション能力とは、人の話を聞く。目を見て話す。うなづきながら聞く。など、機械に向かっての仕事というイメージではあったが、人間関係には欠かせないコミュニケーション力が、必要であった。

最後に、クリッカー使用でのアンケートで、

- ・IT業界で自分も働けそうですか？
- ・IT業界の仕事をしたい人？

の結果は、1回目のアンケートよりも、「働きたい」の項目が増えた。徐々にIT業界の内容が具体化され、働いている自分を想像できているような様子だった。



## 生徒の感想

学校で学ぶことは、授業だけではなく人とのコミュニケーションも必要だということがわかり、毎日の学校生活を大切にしようと思いました。いろいろなひとのインタビューや、ITにもいろいろな種類があると知れてとてもためになったと思います。インタビューを通して、仕事ごとの違いや、同じインターネットを使うにしても使われ方は全然違うということがわかりました。今回の授業でIT企業について具体的に知れてよかったです。

今回はどんな人がやっているかがわかった。ITはすごい難しいイメージがあったし、やっぱり難しかったし、業界用語が難しいと思った。

医療情報の仕事は家に帰るときもずっと勉強して大変なんだなと思った。やっぱりどの仕事も「ありがとう」「おもしろい」など言われたらうれしいんだなと思い、私もIT業界で働くのもいいなと思った。

前回のときより、IT業界の仕事がしたいと思った。

私にはあまり向いていない仕事だと思いました。

IT業界ではコミュニケーション力が必要だということが意外でした。でもたぶんどんな仕事でもそういう力は大切なのではないかと思いました。

今回は少し難しい用語が出てきて困ったけど、ちがうプリントのおかげでよくわかってよかったです。次回のラストがさびしくなりますね。

とても「システム系」の仕事に興味をもちました。PCなどが好きなので、良いなと思いました。システム系の中で仕事もしたいです。

むずかしかった。

マルチメディアの仕事、特にゲームを作る人やCGデザイナーなど、きょうみを持ちました。

IT業界で働く人は機械いじりだけでなく、コミュニケーションも必要だということを知った。

## 疑問

- ・IT業界の方々は学校にいるときどのくらい勉強をしたのでしょうか
- ・なぜコンピューターに命令する言葉はあるのか。
- ・C言語などはどんなものか疑問に思った

**テーマ「世界が100人の村だったら」より**

- ・ 1日100円以下で生活している人の割合は？
- ・ 初等教育を受けられない子どもの割合は？

これからは、世界全体で物事を考えること、今ではなく、100年後、200年後を考えて物事を決めていくことが求められている  
前回と同様に、クリックカー使用でクイズ形式に進める

**授業の様子**

世界中の人に教育の機会をというテーマの中で、教育の大切さから、教育を受けられない子どもたちがたくさんいる現実をDVD視聴し、そんな中でのコンピューターを利用した遠隔教育(e-Learningなど)の説明があった。世界の貧困な子どもたちの様子のDVDを見ながら、自身との比較や現実など、心に刻み込まれている様子がうかがえる。

次に、環境問題をITで解決というテーマでは、地球温暖化をはじめとするさまざまな環境問題の説明の中で、限りある資源、有限な地球、ITでエコしよう、など、資料を見ながら、環境問題をITで解決できるという事を学んだ。

まとめとして、ITが将来のテクノロジーと異なる要素をその可能性について、「見える化」「脱・物質」「無限性」とのお話を聞き、これからのコンピューターを作るのも使うのも、自分たちなのだ学んだ。

毎回最後に「IT業界の仕事をしたくない人は？」との質問だが、1回目、2回目よりも「仕事をしたくない、してもいいかな」の回答率が多くなった。現在日本が抱えている多くの問題に、ITが多く関わっている事を学び、より身近に感じられ、将来の仕事への意識へ少しづつ関わっていくと思う。

**生徒の感想**

ITの可能性が無限にあることを知った。もっともっと新しいものが出てほしいと思った。

未来を考えるのは、今の状態から回復するのはすごく大変そうだなと思った。短い間でしたが、僕たちのために教えてくださってありがとうございました。

自分たち日本の生徒は、他の子どもとくらべ、とても恵まれている事がわかった。IT企業はそういう所で活動していてよいことだと思った。

国によってすごく貧しい人がいるのを知った。それに比べると日本は、すごくいい国だと思った。



世界がもし100人だったら、学校へ行ける人数がすごく少なかった。自分たちのしている事は、当たり前じゃないと気付いた。

普通にインターネットを利用したり学校へ行くことのできる私たちは、幸せなんだと思った。私にはまだまだ知らないことがたくさんあり、たくさんのことを、また知りたいと思った。今回は本当にありがとうございました。

わからなかったことがいろいろあり、ITの事などがすごくわかってよかったです。将来、やってみたいなーと思いました！！

児童労働がとても衝撃的でした。ですが、そのためにITがしていることにはもっと驚きました。いつでも受けられる授業はとても魅力的だと思いますし、未来を考えているIT企業は良いものだと思います。今回で3度目の最終でしたが、ITの今、歴史、そして未来にまで触れて、ITとは身近なものですが、知らないこともたくさんある。今の社会には欠かせない存在だということがわかりました。私たちが利用しているものを、世界の発展途上国でも利用できるようにして、少しでも早く世界の子どもたちが授業を受けられると良いなと感じました。

今回の授業を通し、IT業界も環境に関わっていることがわかった。初めはなぜ、貧民などにITが関わっているのか不思議だったが、説明を聞き理解することができた。

世界の環境のことは興味がありました。ITを活用した環境への貢献がいっぱいあってビックリしました。忙しい中、僕たちのためにお時間をとってもらって、ありがとうございました。この3時間はすごくわかりやすくてためになりました。

3回目の授業で、ITは機械なので二酸化炭素を出すので、クリーンITと聞いて少し「え？」と思いました。しかし、話をきいてこのようなものがあるのかと思いました。僕もこれからエコをしていきたいです。PCが好きなので、ITの仕事も良いなと思いました。

ITのことは話ではわかりにくいけど、絵や写真などでわかりやすく知ることができました。今までの3回ありがとうございました。

## 疑問

- ・なぜ、IT業界が環境に関わっているのかがわからなかった。
- ・eラーニングでツイッター？みたいに話せることができるのか？  
高校生は何人くらいなのか？
- ・なんで、同じ世界なのに、子どもが働いたり、学校へ行けなかったり、貧富の差が出てしまうのか。

ITの3回の授業を行っていただいた安倍先生に出迎えていただいた。スタジオ、授業の収録現場なども見学させていただき、周辺機器も触る体験も。最後には、授業のときにあった「ITの仕事をしたと思う？」の質問に「したい！」との返答が。ITの仕事の認識がしっかりと学べたようだ。



その職場により、仕事も忙しさも休憩時間もまちまちではあったが、体験時間を挟んでの職場体験は、「働く」という事を身をもって体験できたかなと思う。数年後には働いて生きていくということが、本物になる彼ら。中学2年生の成長段階では、今回の職場体験はとても貴重な体験となったことだろう。これをばねに、「働く」未来像を持ちながら、学んでいけたらと思う。



### ふりかえり

IT授業から始まり、機材を触りながらの体験をしてきた内容を、画像を入れながらの発表を行った。「今後の自分にいかしていきたいと思います」と、しっかりとした内容の発表。職業観を講義から学んでの体験をしてきた彼らは、3年時の進路に向けて、十分に活かしていけると実感した。



福祉とは（社会福祉）…

未成年、高齢者や障害者で生活上なんらかの支援や介助を必要とする人、経済的困窮者・ホームレスなどに対し、生活の質を維持・向上させるためのサービスを社会的に提供すること、あるいはそのための制度や設備を整備することを指す。

介護とは…

障害者の生活支援をすること。あるいは高齢者・病人などを介抱し世話をすること。

Wikipediaより引用

実施校	北海道上川高等学校
対象学年（人数）	第2学年（2クラス 63名）
実施時期	2010年8月下旬
プログラムの内容	◇職業人講話、職場見学
プログラムの特徴	◇「職場見学を通じた主体的な進路探究のための動機づけ」を考慮したプログラム
視点	◇社会のしくみの理解と進路実現に向けた職場見学学習
視点	◇旭川で働くさまざまなプロの職業人との触れ合いを通して、いま一度職業に対する視野を広げ、自己の進路選択について改めて考えるきっかけとする。
ねらい	◇ ハローワークの方の講話を聴いたり現地を見学することで、今後必ず訪れる自らの就職活動の姿をイメージする。 ◇ 「旭川を元気にしたい」「人に優しい旭川をつくりたい」と働き、取り組むプロの職業人の話を聞き仕事を見学することで、幅広い職業理解に繋げる。
キャリア能力との関連	◇ 情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力） ◇ 将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力） ⇒ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">キャリアプランニング能力</span> ⇨ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題対応能力</span>
進路形成との関連	◇地元の経済を支えるプロの職業人との触れ合いを通じ、職業イメージを豊かにし、今後の自己の進路探索に活かす。

プログラムの構成



## 事前学習～講演会

実施日 2010年8月24日

ねらい

- ・介護福祉産業の理解
- ・道路啓発学習（1日旭川職場見学）の動機づけ

### 講師

#### ■ 上川町地域包括支援センター 中村 慶政 氏

「地域包括支援センターとは」平成18年4月1日から介護保険法の改正に伴い創設された機関で、地域住民の心身の健康維持や生活の安定、保健・福祉・医療の向上、財産管理、虐待防止など様々な課題に対して、地域における総合的なマネジメントを担い、課題解決に向けた取り組みを実施していくことをその主な業務としている。

#### 外部講師と職場見学先が決まった経緯

今回介護福祉業界の理解というプログラムだったので、どなたか学校に来てお話をしてくれる人と職場見学可能な福祉施設はないかということで上川町社会福祉協議会に連絡をとらせていただき、中村氏と特別養護老人ホーム誠徳園をご紹介して頂いた。

#### 中村氏からのお話

- ・地域包括支援センターの概要
- ・高齢者の認知症や精神障害、身体障害について
- ・上川町の高齢化の現状
- ・うつ病について

#### 授業の様子

講演の中で話だけではなく、漫画を用いた説明や自己診断チェックなどを交えながら、生徒たちも楽しみながらの授業となった。

ほぼ祖父や祖母と一緒に生活したことのない生徒に対し、高齢者についてわかりやすくご説明頂いた。「24時間朝まで起きて次の日学校に行くような体の状態＝高齢者の毎日の状態」。高校生にとっては想像しやすい例である。

また、実際にある話を元に書いた漫画が資料として配られ、生徒たちも静かに集中して読んでいた。認知症や精神障害について、理解することができたのではないだろうか。

最後は、生徒一人一人がうつ病チェックテストを行い、驚くことに半数以上の生徒がうつ病という結果に、生徒自身は勿論のこと、中村氏や先生方も非常に驚いていた。



## 生徒の感想

講話の説明の仕方が今までになくユニークで、漫画による説明はとてもわかりやすくおもしろかった。

上川町に住んでいても、地域包括支援センターが存在していることを知らなかったなので、今度機会があったら詳しく調べて、どのようなことをしているのかを知りたいと思った。

## 本時～旭川1日職場見学

実施日 2010年8月31日

ねらい

- ・将来働く自分の姿をイメージする
- ・社会のしくみを知る
- ・自らが社会で果たす役割を考えるきっかけとする
- ・介護福祉産業の理解

見学先

■ハローワーク旭川 ■旭川グランドホテル ■特別養護老人ホーム 誠徳園

### ハローワーク旭川

- 会議室で上川管内の求人状況の説明
- ハローワーク業務の説明
- 館内見学
- 求人探索機で体験

ハローワークでは、現在の厳しい雇用情勢を知り、少しでも就職活動に向けての心構えが生徒自身できたのではないかと。また現地を見学したことにより、今後必ず訪れる自らの就職活動の姿をイメージすることができたようだ。



### 旭川グランドホテル

- 食事マナーの学習（和食）
- 昼食（会席弁当）
- ユニバーサルデザイン（UD）の考え方とその取り組みについて説明
- グループに分かれてUDルームの見学

和食マナーでは箸の使い方や間違っただるまい等について学んだ。普段何気なく食事をしている自分のマナーの間違いに気づき、お弁当を食べているときは少し緊張気味の様子。でも生徒たちにとっていい経験になったに違いない。



## 特別養護老人ホーム 誠徳園

〈施設（誠徳園）の目的〉要介護状態にある方に対し、適正な介護老人福祉施設サービスを提供することにより要介護状態の維持・改善を目的とし、目標を設定して計画的にサービスを提供する。

- 施設の説明
- グループに分かれて施設内見学
- 車椅子、リフト車体験

数名の生徒が集団リハビリの風船バレーに参加し、普段接する機会の少ない高齢者の方たちとコミュニケーションがとれたので、非常にいい経験になったであろう。



## 校生の感想

ハローワークは、欠かせない見学場所だと思いました。将来、求職するときに、このような役所があることを知っただけでも収穫だと思います。

ハローワーク、介護体験では新しいことを学べたかなと思います。特に、車椅子の体験は、皆学ぶことができたと感じました。

## 生徒の感想

ハローワークの印象は、もっとマイナスな空気が漏っていて、仕事もほとんどないと思っていましたが、そんなことはなく自分の努力次第で何個でも仕事は見つけられると思いました。

めげない気持ちを持って介護の仕事をしている人たちを見て、とてもすごいと感じたし、自分のお爺ちゃんやお婆ちゃんをもっと大切にしていけないといけないかなと感じました。

企業が求める人材は当たり前なのがきちんとできる人というのは当然のことであり、面接に至っても軽い面持ちで臨んではならない、そしてたとえ勉強ができないとしても、コミュニケーション能力や、チャレンジ精神などが問われるということがわかり、とても自分のためになりました。

介護施設の見学を通して、介護の仕事をするなら精神的に強くて優しくないといけないと知りました。

農業とは…

農業とは、耕地等において植物（農産物）を栽培・収穫したり（耕作）、動物（家畜）を飼育し乳製品や皮革、肉、卵を得て（畜産）、人が生きていくうえで必要な食料などを生産する人間の根幹産業である。  
Wikipediaより引用

実施校	恵庭市立恵明中学校
対象学年（人数）	第3学年（88名）
実施時期	2010年10月20日
プログラムの内容	職業人講話（クラスローテーション形式）
プログラムの特徴	広がりある職業感と暫定的選択を考慮したプログラム
視点	◇産業構造理解と社会的な役割意識の育成
視点	◇3カ年の体験学習を振り返り自己の在り方生き方を考える
ねらい	◇講話から農業の中にも様々な職業がある事を理解し、他産業へも興味関心を向ける ◇多様な考え方に触れることで、自己の視野を広げ社会とのバランスを図る ◇進路選択に向けに自らの意志と責任について重要性の理解を深める
キャリア教育との関連	◇人間関係形成能力（自他の理解能力） ⇒ 人間関係形成・社会形成能力 ◇情報活用能力（情報収集、探索能力、職業理解能力） ◇将来設計能力（役割把握・認識能力） ⇒ キャリアプランニング能力
進路形成との関連	◇職業人としての将来像を意識した進路の現実的探究に繋げる

プログラムの構成



# プログラム

## 事前学習

講師に興味関心を持ち、効果的に聴講できる準備を行う。  
講師プロフィールシートから質問を考え、まとめる（クラスごと）

- 講師はどんな人か、どんな仕事をしているか
- その仕事は、産業の中ではどんな位置づけか

## 職業人講話

講話から農業の中にも様々な職業がある事を理解し、他産業へも興味関心を向ける。  
多様な考え方に触れる事で、自己の視野を広げ社会とのバランスを図る。  
進路選択向けに、自らの意志と責任について重要性の理解を深める。

## 振り返り

本時について振り返りを行い、学びの共有を行う。

**実施日** 2010年10月20日 3・4校時

## 外部講師

- 恵庭アグリ企画吉田農場 吉田 俊二 氏  
農業（畑作で収穫体験農場）
- 有限会社 コーンズ・エコファーム 代表取締役農場長 谷 聖一 氏  
搾乳ロボットを使った酪農
- えこりん村 株式会社 羊育成チーム 太内 哲也 氏  
羊飼い
- 株式会社 森哲 取締役社長 矢萩 達也 氏  
青果物仲卸業
- 株式会社 HM カンパニー 代表取締役社長 林 英邦 氏  
農家さんの人材派遣、支援

## 授業風景

### ラウンドセッション型の職業人講話

- 5クラスすべてについて講師の方々にローテーション形式で講演していただく。
- おひとりにつき15分程度（「担任の先生からの講師紹介」や「質疑応答」や「御礼の言葉」を含む）。
- 講師の方については本時スタート時には最初の担当クラスに入っている状態。



## 吉田農師へ生徒から事前の質問事項



- テレビに出演してから、何か変わったことがありますか？
- 畑は、どれくらい大きいですか？
- 何をどれくらい植えていますか？
- 年収は？
- 仕事について理由は？
- 冬は何をしていますか？
- 個人で仕事をしていますか？

### 吉田農師のお話

#### ●お仕事内容【体験型農業】

珍しい野菜を見つけ栽培し、沢山の人に知って欲しい、触れてほしい、実物を見て感じて欲しいという思いで体験農業を続けています。今では、タカトシ牧場としてテレビでも沢山の方に知ってもらうことができ嬉しいです。

#### 生徒へのメッセージ

ひとはみんな人の為に働く。  
学んだことも人をやっつけるためではなくて、人を助けたり人の為になることをする為。



## 谷農師へ生徒から事前の質問事項



- ロボット以外でどんな機械をつかっていますか？
- 年収は？ ● どうしてこの名称にしたのですか？
- ロボットの値段は？
- どのところがたのしいですか？
- ロボットの作り方を教えてください。
- 好きな乳製品は何ですか？
- サイロはいくつありますか？

### 谷農師のお話

#### ●お仕事内容【酪農（自動搾乳機導入）】

1年365日働きづめと思われる酪農ですが、コーンズエコファームでは、自動搾乳機を導入し、牛が自動的に搾乳機に向かいコンピューターによりタイミングをはかります。掃除までもロボットが担っていきます。

#### 生徒へのメッセージ

自由とは、試行錯誤に陥らないこと。  
常に知恵を絞るために主体的に学び選択肢を広げる事。



## 太内講師へ生徒から事前の質問事項



- 羊にたいする思いは？
- どんな格好で仕事していますか？
- 年収は？
- 羊の数は？
- 牛と羊の飼い方の違いは？
- ジンギスカンを食べるときどう思いますか？

### 大内講師のお話

#### ●お仕事内容【羊の飼育】

羊達が過ごす牧場の状態（食べる量の牧草があるか…？）や羊自身の様子（体調はどうか？）などを確認しデータ化します。羊の飼育を本場ニュージーランドで学びました。

#### 生徒へのメッセージ

何でもやってみることそして好きになれた事は一生懸命に取り組み学び続けることで前進できる。



## 矢萩講師へ生徒から事前の質問事項



- 年収は？
- やめたいと思ったことは？
- 青果を作って一番困るのは台風ですか？
- 卸売りはどこから物品を買っているのか？  
身近な企業などで教えてください。
- いつも高く売れる青果はなんですか？
- 売れる青果は全て売れますか？
- 冬に一番せりにでる果物はなんですか？

### 谷講師のお話

#### ●お仕事内容【青果卸売（流通）】

生産者から買った青果を道内各スーパーへ届けている。命を届けているという思いで一生懸命お仕事をしています。（セリで使う合図を皆でやってみました！）

職業を考える時、お医者様でなくても人を助ける事ができます。たとえば、自分の仕事も命をつなぐ大切な仕事だと思っていますし、職業には限りなく広がりがあると思います。

#### 生徒へのメッセージ

夢は思い続けると叶う！ささいな夢でも夢は夢、大きさは関係ない！  
思い続けることで夢は叶う。





- どのような仕事をしていますか？
- いつから社長になりましたか？ ●HMカンパニーとは？
- 人材は、どうやって決めていますか？
- 年収は？ ●社員の数は？ ●仕事のやりがいとは？
- どんなところに派遣するのですか？
- 支援の範囲は、どこからどこまでですか？
- 1日どれくらい派遣しますか？
- 人が見つからない場合どうしますか？

### 林業師のお話

#### ●お仕事内容【農家専門派遣】

就農者をふやしたい！北海道の農業を北海道を元気にしたい！そんな思いから農種によって異なる繁忙期に就農希望者の派遣を始めました。作物のプロから技を教わりながら、自分の夢を叶えていくヒトを応援しています。

#### 生徒へのメッセージ

普通の人やらないことを一生懸命徹底的にやることでプロになる。  
絶対成功する方法は、成功するまでやり続けること！



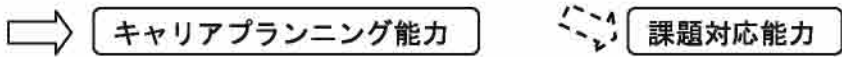
恵庭市立恵明中学校では、3カ年を通して行ってきた体験学習のまとめとして、「農業」を通じた産業理解が深まった。生徒一人ひとりが、多様な職業人の仕事に対する姿勢、思いに触れ、自己の進路選択、将来設計を主体的に考える機会になった。

自動車産業とは…

自動車及び自動車部品の生産、販売、利用、整備に関連した産業をさす。

日本の基幹産業であり、自動車産業の就業人口は、メーカー、下請け、部品メーカー、その他関連事業（製造・資材部門等）含めおよそ515万人 全就業人口に対し1割弱の8.1%もの人が携わっていることになる。（資料：JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会）

産業構造においては、完成車メーカーから、一部分のみを製造する部品メーカー・開発・研究所など裾野の広い分野である。  
Wikipediaより引用

実施校	北海道厚真高等学校
対象学年（人数）	第1学年（1クラス 38名）
実施時期	2010年10月
プログラムの内容	環境教育（基礎教育） ものづくり講話と実施（体験学習） 企業見学（産業関連企業）
プログラムの特徴	「自動車産業の理解・展開と社会参加意識の向上・発展」を考慮したプログラム
観点	◇ 生活と関連付けた産業構造の理解と社会的役割理解の深化
視点	◇ 体験活動を通して産業の成り立ちやしくみ・展開について理解する ◇ 地域社会を取り巻く環境について学ぶことで興味感心を高める
ねらい	◇ 職業人としての役割と責任を理解させ望ましい職業観を育成する ◇ 課題の発見と解決に向けた主体的な取り組み姿勢を育成する ◇ 自己の適正と将来について主体的に考え進路を選択させる
キャリア教育との関連	◇ 情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力） ◇ 将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力） 
進路形成との関連	◇ 地元の経済を支えるプロの職業人との触れ合いを通じ、職業イメージを豊かにし、今後の自己の進路探索に活かす

プログラムの構成



**実施日** 2010年10月19日

**ねらい**

- ・職業人としての役割と責任を理解させ望ましい職業観を育成する
- ・課題の発見と解決に向けた主体的な取り組み姿勢を育成する
- ・自己の適正と将来について主体的に考え進路を選択させる

## 職業人講話

**外部講師**

### ■ 株式会社 キメラ 取締役副社長 駿河 正徳 氏

自動車産業の一躍を担う企業で本社工場は、室蘭市に所在している。従業員は現在132人、営業拠点は、国内に室蘭と東京の2箇所。世界ではヨーロッパ・中国・アメリカ・メキシコ・ブラジルなど世界5箇所にあり今後もマレーシア・シンガポールと順次広げていく予定。金型業界では非常に稀有で先進的な企業の位置づけになっている。

#### ●外部講師と職場見学先が決まった経緯

コーディネーターが前職で株式会社キメラにお世話になっていた。

### 駿河氏からのお話

まず始めに企業概要の説明があり、その後は社会が（世界が）求める環境対策、地球温暖化（G02）問題や経済問題（リーマンショック）等の課題、自動車産業の取り組み（次世代型自動車の技術開発）についてじっくりお話された。

### 授業の様子

北海道厚真高等学校は、普通科ということもあり興味関心の差がはっきりしていた。女子の数名に「面白かった」「色々知れてよかった」など率直な感想があがっていた。講話の内容も少し専門的なことも含まれており、高校生段階でも校種による内容の組み立ての必要性を感じた。全体的には社会の現状を知り、課題を明確にし、解決に向けた自動車産業全体の取り組み等ストーリー的に非常に分かりやすく、理解度の高い内容であった。日本の基幹産業である自動車産業を理解するうえで外すことの出来ないコンテンツである。



## ふりかえり

環境を通し、働く事の意義や他との関わり、今大切にしたいことなど、キャリア教育の視点が盛り込まれていた。また、自動車産業に特化した内容となっていたが他産業の取り組みなども比較しながら取り入れることができれば、非常に重要なコンテンツであるので、校種や発達段階に合わせ小中高に展開したい内容である。

実施日 2010年10月22日

ねらい

- ・ものづくり体験を媒介し自動車産業の理解を深める。
- ・共同作業による成功体験を通し、主体的に粘り強い態度を育成する。

外部講師

■ 室蘭工科大学 工学博士 准教授 清水 一蓮 先生

●外部講師が決まった経緯

コーディネーターが友人から紹介を受けた。

清水准教授からのお話

自動車産業の現状をまず始めにお話しされ、その後はものづくりという仕事、世界から見た日本の北海道の産業分布と特徴についてお話された。

授業の様子

始めに、本日学ぶことを清水先生からご説明され、材料と製法について学ぶ。「材料は形を変えることができ、そのことで価値があがる。形を変えるには加工が必要で加工には歴史があり、その歴史はエネルギーの歴史と対比できる。昔は組み立てが主流だが、電気が通ってからは、切削、溶接等広がりがあった。今日は、溶かして形をつくる鑄造を体験します。」と声をかけられ、実際に2人1組で作業を行った。作業の前後を講話で挟んだ形も新鮮で、集中力も途切れることなく、主体的な取り組みができていた。ものづくり体験では全員が成功体験をし、ものづくりの基礎を理解出来たことに非常に大きな価値がある事と思う。

ふりかえり

19日に行われた環境授業・本日のものづくり授業がつながり講話にも積極的に耳を向けていた。ものづくり体験では自動車産業において、殆どの「ものづくり」に共通する製法をアナログに自分の手で体験できたことは非常に価値ある事と思う。



## 企業訪問

### 訪問先企業

【1】アイシン北海道株式会社 担当：小西氏

### 企業への依頼事項

- ・工場見学及びものづくり(鋳造工程についての理解の深化)
- ・視点についての提起
- ・企業CSR 代表的な取り組みの紹介

### 見学の様子

事前学習(環境授業・ものづくり授業)の総まとめとして有機的なつながりある企業見学が実施された。特に、直前に体験した鋳物作りのしくみが使われている鋳造工程の説明時には、より興味関心の高まりがうかがえた。また、アイシン北海道株式会社では、大きな取り組みとして「自然との共生」を謳われており、事例の紹介や見学時の注視点として理解度も向上した。



### 訪問先企業

【2】トヨタ自動車北海道株式会社 担当：大田氏

### 企業への依頼事項

- ・工場見学及びものづくり(鋳造工程についての理解の深化)
- ・視点についての提起
- ・企業CSR 代表的な取り組みの紹介

### 見学の様子

事前学習(環境授業・ものづくり授業)の総まとめとして有機的なつながりある企業見学が実施された。見学先企業との繋がりやトヨタ生産方式(自働化・ジャストインタイム等)についてのお話。トヨタ自動車北海道株式会社での、ものづくりへの思いのお話をされた。

見学の冒頭には、未来の自動車やトヨタが開発したロボットなどの紹介され、愛・地球博で紹介された『LEDライトで光る車』『トランペットを吹くロボット』を皆、前進して食い入るように見学していた。また、工場内では自動組み立てのフレンドロボットヘラクレスや、対照的にヒトの手で行っている組み立てを見学し、ポカヨケや個人では“カイゼン活動”“グループではQC活動”などにより、コスト削減等の自助努力事例についても紹介された。

環境の取り組みとしては、“トヨタの森”“天然ガスの導入”“浄水場”などにより、ゼロエミッションを達成しISO14001も取得している。取り組み内容に関しては、身近な事象が多く耳慣れた言葉によく理解しているようだった。



## ふりかえり

自身で経験した内容(鋳物づくり)が仕事になった姿の見学や、自動車産業という大きな枠の中にかかわり合う企業の見学をする事ができ、説明時には興味深く主体的な取り組みが見られとても効果的な見学となった。自動車産業理解においての「ものづくり産業理解」を推進するには、体験活動の重要性が位置づけられたのではないかと思う。

流通産業とは…

流通活動を自ら行う企業の総評。メーカー、卸売業、小売業、物流業者が入る。純粋に流通活動を行う企業で流通業、つまり卸売業、小売業のみをさす解釈もある。kotobank より

実施校	苫小牧総合経済高校
対象学年（人数）	第2学年（80名）
実施時期	2009年12月～2010年2月
プログラムの内容	マナー講座、職業人講話、企業・学校見学
プログラムの特徴	企業と大学訪問による進路形成の動機づけを考慮したプログラム
観点	◇社会の仕組みの理解と進路実現に向けた訪問体験学習
視点	◇ 企業訪問と大学見学により現在の学習と進路意識をつなぐ
ねらい	◇具体的な進路設計に向け、自己の可能性や視野を広げるため多面的な視点から生きた情報・知識に触れる。
工夫	◇マナー講習・職業人講話・企業・大学見学を学科の学習と関連させる
キャリア教育との関連	◇情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力） ◇将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力） ⇒ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">キャリアプランニング能力</span> ⇄ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題対応能力</span>
進路形成との関連	◇社会との関連をつかみ、現在の学習が将来と繋がる意味を考える
留意点	◇それぞれが単独のものとならないよう講師・企業の選定とマッチング ◇見学先6か所が同日日程のためスケジュール管理と生徒の動きの確認

プログラムの構成



プログラム

マナー講座

**実施日** 2009年12月7日 5・6時間目

**外部講師** ■ 大丸藤井セントラル 営業推進課 福島 課長

**ねらい**

・ 礼儀、礼節の理解、時と場に応じた適切な態度を育成する



## 授業の様子

### 5時間目＝ロールプレイを取り入れた内容＝

- ・声の出し方（発声）
- ・お辞儀の角度
- ・笑顔（表情）の作り方
- ・あいさつ…他

### 6時間目＝講義を中心とした内容＝

- ・コミュニケーション
- ・挨拶の重要性…他

ロールプレイを中心に行った5時間目は手鏡で自分自身、そして隣同士、列毎互いに評価しあいながら挨拶のレベルをあげていった。6時間目は、5時間目に行った内容を更に掘り下げ、生徒へたくさんのお気づきを与えた時間となった。傾聴の姿勢も素晴らしく、真剣に聴き入っていた。全体的に講師の問いかけに非常によい反応をしていた生徒、1対多数にも関わらず、素晴らしい双方コミュニケーションができていた。実際に現場で接客・接客のプロとしてお仕事をされている講師の話、間近で聴く事ができ、よい経験となった。

## 職業人講話

**実施日** 2010年1月27日

### 外部講師

■ 株式会社 ニトリ CSR 部門 伊東 盛幸 氏

■ 株式会社 セイコーマート 運営統括部 道央エリア運営部 道南二課 課長 岡田 英大氏

### ねらい

- ・流通現場見学事前として流通事業の色々を学ぶ

流通経済B組では、株式会社 ニトリの歴史や仕組みを交えて流通についての知識が得られる内容、流通経済C組では、身近なコンビニ、セイコーマートの流通、ヒミツに迫る内容、それぞれ非常に興味深い内容となった。先生からも見学に向け生徒の意識も高まった。との見解により見学、そしてまとめへと弾みをつけられたように思う。今回の授業はキャリア教育＝職業・企業といった“働く”ではなく、上級学校等進学も視野に入れた、キャリアデザインの青写真を描く為のツールとして、役割を担えたのではないかと思う。

## 企業訪問

**実施日** 2010年2月9日

株式会社 ニトリ 流通センター …見学及びレクチャー

### ねらい

- ・「独自商品開発の取り組みや物流センターのしくみ」など、現場で生の情報を“みて・きいて”自身の進路探求に役立てる

## 学校訪問

### 札幌学院大学 …ミニ講義と構内見学

・会計 ・流通 ・見学案内は卒業生

#### ねらい

- ・ミニ講座を通し、大学の学びについて理解を深める卒業生による案内で次年度、迎える進路選択において、より“リアル”な進路意識を向上させる。

専門に特化した内容で構成されており、生徒達にとって少しだけ未来を垣間見ることができたのではないかと。普段見ることのできない、バックヤードを見学、体験することでよりリアルに社会と向き合い自分の中にある可能性にも気づいてほしいと思う。

## 生徒の感想【企業・学校訪問】

### 株式会社 ニトリ 流通センター

お仕事中時間を割いて案内してくれてありがとうございます。ニトリにある家具などは、こうやって運ばれるんだなど、少し流通のしくみがわかりました。

資料やパンフレットでは解からない事が知れてよかったです。

### 札幌学院大学

とっても楽しく、とっても興味深くなりました。

今まで自分が思っていた大学のイメージよりリアルに感じられました。これから進路を考える時に役立てます。ありがとうございました。

## 先生たちの声

生徒にとっても教員にとっても良い学習の機会となり、様々な経験ができ、終了後の反省会では大変好評なので「来年も是非継続すべき」との意見が多数でした。

この度の本校2年生対象の「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育推進にあたりましては、職業人マナー講習から企業・学校訪問までのコーディネートを賜り誠にありがとうございます。

(中略)

今回の活動は、生徒にとってキャリア教育を考える機会となり、日常の学習と産業が結びつく実感を得る事により職業意識が高まり、大学見学によって進路選択の可能性を考えるきっかけとなりました。

貴法人の皆様には、企画段階から大変親身になりご尽力頂きましたこと、重ねてお礼申し上げます。今回の件をご縁に今後とも本校の教育活動にご支援を頂戴できますことをお願い申し上げます、お礼とさせていただきます。

## あ と が き

NPO教育プラットフォーム北海道  
副理事長 藤田 和久

当NPOは平成20年経済産業省の委託事業であるキャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム構築事業で実施したキャリア教育コーディネーター育成講座の受講生で構成される団体であり、以後、会員のコーディネートスキルの向上を目的とした例会・研修会や道内の小中学校でキャリア教育の授業を行うなどの活動を行っています。

平成21年度に北海道経済部よりキャリア教育ビジネスモデル構築事業を受託し、道内各地でキャリア教育プログラムの開発実施を行うと共にその実施成果を公表して、授業でキャリア教育を実施する際の参考としていただき、キャリア教育の普及と質的向上を図り、ひいては生徒が高校卒業後、社会人として就業する際に確かな職業感・勤労観が確立される事により早期離職やミスマッチを抑止することを目的の一つとしています。

しかし近年、キャリア教育の普及に伴い教育界側から、キャリア教育と言うが「何をやって良いかわからない?」、「全国の実施事例が紹介されているが、当地にはマッチしない。」、「産業界との人脈がない」などの声が当NPOのコーディネーターに寄せられるようになり、北海道内のキャリア教育実施事例を産業別に分類し、かつ各校の事情（時間数・周辺の産業構造）に配慮したテキストが必要と感じ、当NPOが2年間の委託事業の中で開発実施した事例をこの冊子にまとめさせていただきました。

当テキストをぜひ、各校でキャリア教育の授業を行う際にご活用いただき、御不明な点や授業実施に必要な人材（講師・ファシリテーター・コーディネーターなど）等のご照会は当NPOのコーディネーターに遠慮なくお問い合わせください。

最後にこのテキストを編集するにあたりご協力いただいた、北海道経済部雇用労政課の皆様をはじめとする関係各位に、この紙面を借りて改めて御礼申し上げます。



## キャリア教育サポートガイド

平成23年3月発行

### 【発行・編集機関】

北海道職業開発総合センター札幌支所

北海道福祉会館

平成22年度キャリア教育実践ビジネスモデル実践本部

### 【制作・編集担当者】

NPO法人 教育プラットフォーム北海道

〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目エルプラザ2F

札幌市島野総合サポートセンター内

TEL 011-299-7473 FAX011-299-7493

[http://blog.campan.info/career\\_asuna/](http://blog.campan.info/career_asuna/)

### 【監修協力】

北海道福祉人創造大学院

<http://okag.campan.info/meister/>

### 【印刷】

株式会社 石井印刷

<http://ip-hill.com/>